

# TemPower

AR-E 気中遮断器 取扱説明書  
(固定形 AGR-12B形過電流引外し装置搭載)



形式 : AR206E  
AR208E  
AR210E  
AR212E  
AR216E

お願い

- お取扱いの前に、必ずこの取扱説明書をお読み下さい。
- この取扱説明書は、ご使用になる方のお手元で大切に保管して下さい。
- 電気工事は、有資格者（電気工事士）が行って下さい。
- 遮断器の保守点検・付属品交換、過電流引外し装置の設定変更・試験は、専門知識を有する人が行って下さい。

寺崎電気産業株式会社



# 目次

1. 安全上のご注意	5
2. 受入れと取り扱い	7
2-1. 運搬時の注意	7
2-1-1. 遮断器の運搬	7
2-2. 保管時の注意	8
2-3. 据付時の注意	8
3. 概要	10
3-1. 種類及び要目	10
3-2. 概観	12
3-3. 回路と定格	15
4. 操作と動作	19
4-1. チャージ, 開閉操作	19
4-1-1. チャージ操作	19
4-1-2. 閉路操作	20
4-1-3. 開路操作	20
4-1-4. トリップ表示スイッチ, スプリングチャージ表示スイッチの動作	20
4-1-5. 操作機構部の動作	21
4-2. 開閉ボタンカバーのロック操作	23
4-3. ロックインオフ操作	23
4-4. OCRカバーのロック操作	24
5. 過電流引外し装置 (OCR)	24
5-1. 仕様一覧	24
5-2. 特性一覧	25
5-2-1. 一般保護用 L 特性	25
5-3. 特性設定方法	27
5-4. 動作表示	28
6. 保守点検と付属品交換	29
6-1. 点検要領	30
6-2. 付属品交換要領	33
6-2-1. 準備 (UVT 交換含む)	33
6-2-2. 消弧室	36
6-2-3. 投入コイル (LRC)	37
6-2-4. 瞬時定格電圧引外し装置 (SHT)	38
6-2-5. 制御リレー	39
6-2-6. 引外しコイル (MHT)	41
6-2-7. 補助スイッチ	42
7. 異常現象に対する処置	43
気中遮断器《ユーザー登録》ご案内	47




# 1. 安全上のご注意


この度は、弊社AR形気中遮断器（**TemPower2**）をお買い上げ頂きましてありがとうございます。


この章では、安全に関する重要な内容を述べています。

気中遮断器（以下「遮断器」という）を正しくご使用頂くために、取扱い作業の前に必ずこの章及び取扱説明書全体とその他の付属書を全て熟読し、正しくご使用下さい。機器の知識、安全の情報そして注意事項の全てについて習熟してからご使用下さい。

この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「危険」「注意」として区分しています。

 **危険**：取扱を誤った場合に、危険な状況が起りえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。

 **注意**：取扱を誤った場合に、危険な状況が起りえて、中程度の障害や軽傷を受ける可能性が想定される場合及び物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、 **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守って下さい。

## ■運搬時のご注意

### 危険

- 吊り上げ金具等で吊り上げた遮断器の下に決して入らないで下さい。遮断器は重量物です。落下したとき、非常に危険です。

## ■据付時のご注意

### 注意

- 電気工事は、有資格者（電気工事士）が行って下さい。
- 高温、多湿、過度の塵埃、腐食性ガス、振動、衝撃など異常環境に設置しないで下さい。火災の原因となったり、遮断器が正常に動作しないおそれがあります。
- ゴミ、粉塵、コンクリート粉、切り粉、鉄粉等の異物及び雨水、油等が遮断器内部に入らないように施工して下さい。火災の原因となったり、遮断器が正常に動作しないおそれがあります。
- 施工作业は、上位遮断器等を「切」にし、充電していないことを確認して行って下さい。感電のおそれがあります。
- 遮断器は、水平かつでこぼこのない面にしっかりと取付ねじで固定させて下さい。遮断器の転倒により、遮断器の損傷、けがのおそれがあります。
- 端子ねじは標準締付トルクで確実に締付けて下さい。緩みは、火災の原因となります。
- 4極形遮断器の場合、3相4線式の中性線は必ずN相極（右端極）に接続して下さい。過電流で遮断器が動作せずに火災の原因となります。

## ■操作時のご注意

### 危険

- 主回路端子部や制御回路端子部に触れないで下さい。感電のおそれがあります。

### 注意

- 手動チャージ操作の完了後は、無理にチャージングハンドルを押し下げないで下さい。故障の原因となります。
- 電動チャージ形に装備されるチャージングモータの操作可能電圧範囲は、交流の場合操作電源定格電圧の85～110%、直流の場合は75～110%です。必ず範囲内の電圧を与えて下さい。範囲外の電圧での電動チャージ操作は、故障、焼損、火災の原因となります。

## ■操作時のご注意（つづき）

### ⚠注意

- 電動チャージ操作による遮断器の連続開閉操作は、15回以内として下さい。連続15回の開閉操作を行った場合は、20分以上の休止時間を与えて下さい。チャージングモータ焼損の原因となります。
- 通電中、ガス排出口に手や顔を近づけないで下さい。電流遮断時、高温ガスが吹き出し、火傷のおそれがあります。
- 自動的に遮断器が引外し動作（トリップ）した場合は、原因を取り除いてから閉路して下さい。火災のおそれがあります。

## ■過電流引外し装置（OCR）取扱い時のご注意

### ⚠注意

- 過電流引外し装置の設定変更は、専門知識を有する人が行って下さい。
- 過電流引外し装置の設定を変更した後は、ANS2S形OCRチェック用変換器（別売）等による特性の確認を行ってください。
- 過電流引外し装置の試験後は、各設定項目を必ず試験前の設定値に戻してください。戻し忘れは、火災、焼損の原因になります。
- 過電流引外し装置の各種設定を変更するときは遮断器を開路し、OFFボタンのロック操作などの方法で不用意に閉路できないようにしてください。
- 過電流引外し装置の特性設定スイッチ（ロータリスイッチ、スライドスイッチ）は、小形マイナスインドライバーによって、0.1 N・m以下のトルクあるいは0.1 N以下の力で操作して下さい。過大なトルクあるいは力での操作は故障の原因となります。

## ■保守点検と付属品交換時のご注意

### ⚠注意

- 保守点検・付属品交換は、専門知識を有する人が行って下さい。
- 通電停止（遮断器開路）直後は遮断器導電部、特にコンタクトや導電部に近接した構造物に触れないで下さい。残留熱により、火傷のおそれがあります。
- 作業は、上位遮断器等を切にし、主回路、制御回路共充電していないことを確認して行って下さい。感電のおそれがあります。
- 保守点検・付属品交換は、投入スプリングをディスチャージし、遮断器を開路して行って下さい。不意の開路、開路動作により、手指や工具が操作機構部に挟まれてけがをすることがあります。
- 端子ねじは、定期的に標準締付トルクで増し締めして下さい。緩みは、火災の原因となります。
- コンタクト部のコンタクトチップを研磨するときは、ケズリ粉が遮断器本体の操作機構部に入らないようにし、研磨後はきれいに拭き取って下さい。遮断器の故障、火災の原因となります。
- 耐電圧、絶縁抵抗試験は、規定値と異なる条件で行わないで下さい。故障のおそれがあります。
- 取外した消弧室は、必ず取付けて下さい。取付けに不備があると火傷・火災の原因となります。
- 保守点検で、遮断器の消弧室、フロントカバー、サイドカバーを取外した状態でチャージ・開閉操作を行う時は、操作に必要な箇所（チャージングハンドル、ON・OFFボタン、可動コア等）以外には触れないで下さい。手指や工具が挟まれてけがをすることがあります。
- 各付属品の交換の際、付属品の制御電線をドライバーなどで傷つけたり、付属品と本体の間に制御電線を挟んで取付けしないで下さい。故障の原因となります。

## 2. 受入れと取り扱い

遮断器が届きましたら下記の点をご確認下さい。万一、不都合が発見された場合は、ただちに最寄りの弊社営業所にご連絡下さい。本取扱説明書末尾にご連絡先を記載しています。

- ご注文通りの遮断器が届きましたでしょうか。付属品についてもお調べ下さい。
- 輸送中に損傷した箇所がないか点検して下さい。

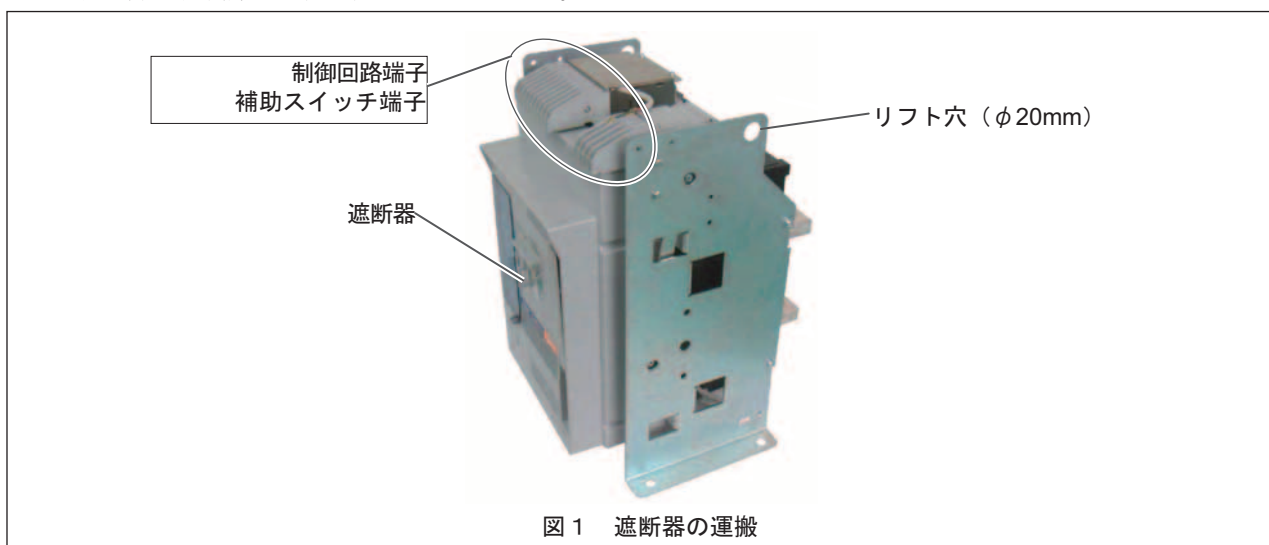
### 2-1. 運搬時の注意

#### ⚠危険

- 吊り上げ金具等で吊り上げた遮断器の下に決して入らないで下さい。遮断器は重量物です。落下したとき、非常に危険です。

#### 2-1-1. 遮断器の運搬

- 遮断器を吊り上げるときは、リフト穴に吊り上げ金具またはワイヤーロープ等を掛けて下さい。このとき、ロープの内側に加わる力で、図1に示す制御回路端子、補助スイッチ端子、制御回路端子台に当たらないようにして下さい。また、遮断器を吊り上げる時、ゆっくりと吊り上げて下さい。運搬する場合はパレットに乗せて静かに移動させて下さい。
- 運搬中に大きなショックや振動を与えないで下さい。
- 横倒しにして、運搬しないで下さい。
- 長距離運搬をする場合は、運搬中のショックにそなえて遮断器に木枠梱包を行い、さらに梱包体を木材やロープで固定して下さい。
- 遮断器を降ろす場所は水平な平面を選んで下さい。



## 2-2. 保管時の注意

遮断器は受取後すぐに使用され運転にはいることが推奨されますが、使用まで保管される場合には、適切な状態で保管するために次の点にご留意下さい。

- 水分の吸着は絶縁部分に悪い影響を与えますから、遮断器は乾燥した場所に保管して急激な温度変化により結露しないように充分注意して下さい。
- 遮断器は腐食性ガスや過度の塵埃のないきれいな場所に保管して下さい。特に、多くの部品を腐食させるおそれのある、水分とセメントの結合物から遮断器を保護して下さい。
- 遮断器は水平に正規の状態に置いて下さい。（横倒ししないで下さい。）
- 遮断器は床面に直に置かないで下さい。また、遮断器は積み重ねて保管しないで下さい。

## 2-3. 据付時の注意

### ⚠注意

- 電気工事は、有資格者（電気工事士）が行って下さい。
- 高温、多湿、過度の塵埃、腐食性ガス、振動、衝撃など異常環境に設置しないで下さい。火災の原因となったり、遮断器が正常に動作しないおそれがあります。
- ゴミ、粉塵、コンクリート粉、切り粉、鉄粉等の異物及び雨水、油等が遮断器内部に入らないように施工して下さい。火災の原因となったり、遮断器が正常に動作しないおそれがあります。
- 施工作业は、上位遮断器等を「切」にし、充電していないことを確認して行って下さい。感電のおそれがあります。
- 端子ねじは標準締付トルクで確実に締付けて下さい。緩みは、火災の原因となります。
- 4極形遮断器の場合、3相4線式の中性線は必ずN相極（右端極）に接続して下さい。過電流で遮断器が動作せずに火災の原因となります。

- 直射日光の当たらない場所に据付けて下さい。
- 据付面は、遮断器の質量（表3）に対し、十分な強度を待たせて下さい。特に、振動に対する考慮が必要です。共振は絶対に起らないように考慮して下さい。遮断器の開閉ショックが他の機器を誤動作させたり、また、配電盤全体の振動が遮断器を誤動作させたりする場合があります。
- 主回路端子と接続導体を接続する主回路端子ねじは、以下のものをご用意下さい。ねじ長さは、各種条件によりご選定下さい。

主回路端子ねじ：六角M10、ねじ1本につき平座金2、ばね座金1、ナット1

締付けトルク：22.5～37.2 N・m

表1 主回路端子ねじ本数

形式	AR206E～AR216E
主回路端子ねじ本数（3極/4極）	12/16

- アース端子ねじは、以下のものをご用意下さい。ねじ長さは、アース端子M8タップ穴へのねじ込みが4～9mmの長さになるようご選定下さい。

アース端子ねじ：M8－1本、ばね座金、平座金付、締付けトルク：11.8～14.7 N・m



- 接続導体は、ブスバーサポートなどによって、図2、表2に示すL寸法以下の位置で強固に支持して下さい。ブスバーサポートは、大電流通電時に発生する大きな電磁力に対し、接続導体や遮断器主回路端子の変形、破損を防ぎます。ブスバーサポートは良質な絶縁物を使用し、十分な絶縁距離を確保して下さい。

表2 主回路端子からブスバーサポートまでの最大許容寸法

推奨短絡電流 (kA)		30	50
L (mm)	AR206E~AR216E	水平端子 200	150
		垂直端子 150	100

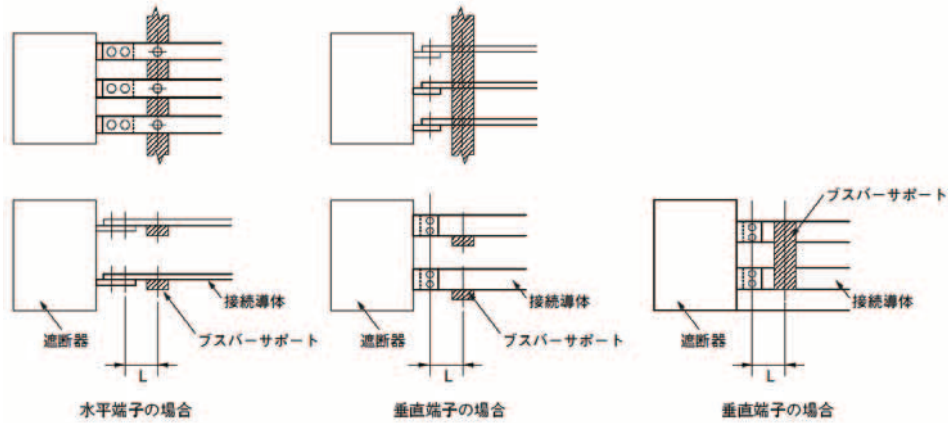


図2 ブスバーサポート取付け

- ねじ端子形制御回路端子，補助スイッチ端子へは，図3の締付トルクで結線を行って下さい。

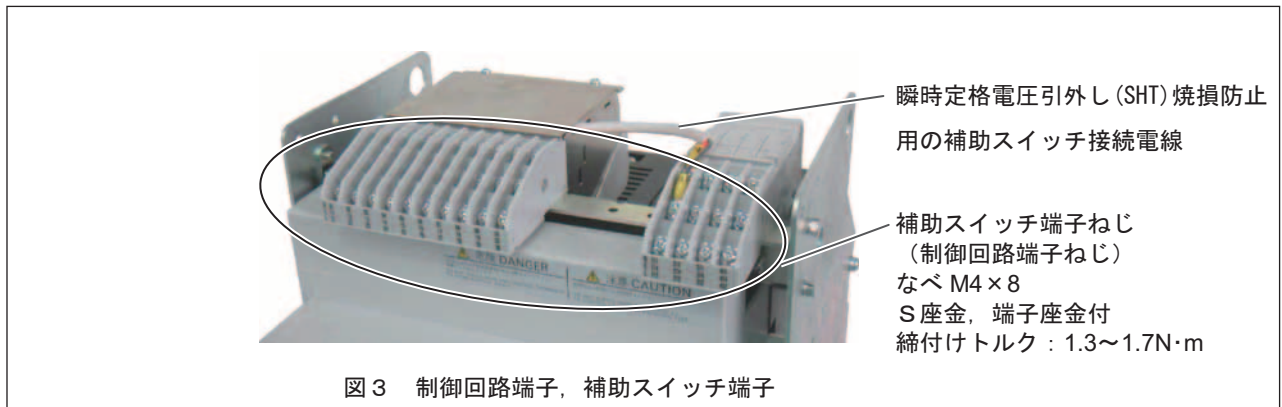


図3 制御回路端子，補助スイッチ端子

- 遮断器の据付後にその周辺で工事が行われる場合，溶接片，金属粉，電線屑などが付着，侵入しないよう，遮断器に適当な覆いをかけて下さい。

### 3. 概要

#### 3-1. 種類及び要目

遮断器には、表3に示す種類があります。

表3 遮断器の種類1

フレームサイズ (A)			630	800	1000	1250	1600					
形式			AR206E	AR208E	AR210E	AR212E	AR216E					
遮断器の最大適用定格電流 [I <sub>n</sub> ] (A) ①②	⑤JIS,IEC,EN,AS		630	800	1000	1250	1600					
電流 [I <sub>n</sub> ] (A) ①②	⑥JEC		630	800	1000	1250	1450					
N相極の定格電流 (A)			630	800	1000	1250	1600					
極数③④			3   4	3   4	3   4	3   4	3   4					
定格絶縁電圧 [U <sub>i</sub> ] (V, 50/60Hz)			1000	1000	1000	1000	1000					
定格使用電圧 [U <sub>e</sub> ] (V, 50/60Hz)			690	690	690	690	690					
定格遮断電流 [kA sym rms] / 定格投入電流 [kA peak]												
JIS,IEC,EN,AS [I <sub>CS</sub> =I <sub>CU</sub> ]	AC690V⑦		30/63									
	AC440V		50/105									
JEC	AC550V		30/63									
	AC460V		50/105									
	AC220V		50/105									
定格短時間電流 [I <sub>CW</sub> ] [kA rms]	0.5秒		50									
	1秒		42									
定格ラッチング電流 (kA)			42									
開閉耐久回数 ⑧	機械的	保守有	20000									
		保守無	10000									
	電氣的	保守有	AC460V			5000						
		保守無	AC690V			3500						
取付方式			固定形									
質量 (kg)			35	42	35	42	38	45	38	45		
外形寸法 (mm)												
固定形 ②		a	356	441	356	441	356	441	356	441	356	441
		b	460									
		c	272									
		d	63									
接続方式	電源側		水平端子, 垂直端子または表面端子のいずれか選択									
	負荷側		水平端子, 垂直端子または表面端子のいずれか選択									
制御回路端子の端子形状			ねじ端子									
操作方式			手動チャージ形または電動チャージ形のいずれか選択									
過電流引外し装置 (OCR)			過電流引外し装置無, 一般保護用L特性のいずれか選択									
動作表示			一括表示									
電氣的引外し装置	引外しコイル (MHT)		過電流引外し装置付の場合標準装備									
	瞬時定格電圧引外し装置 (SHT)		オプション追加									
	不足電圧引外し装置 (UVT)		オプション追加									
補助スイッチ	スイッチ数		4C (標準装備), 7C, 10Cのいずれか選択一般用, 微小負荷用あり									
	端子形状		ねじ端子									
操作電源	定格電圧		AC100V, AC110V, AC120V, AC200V, AC220V, AC240V DC24V, DC48V, DC100V, DC110V, DC125V, DC200V, DC220V 13種類のうちの1つを選択									

- ①: 開放状態 (周温40°C) での値です。  
 ②: 水平端子の場合です。  
 ③: 2極は3極形の両端極をご使用下さい。  
 ④: N相保護機能無の場合, 4極形遮断器は配電系統ITシステムに適用できません。  
 ⑤: JISC8201-2-1 Ann.1 Ann.2に基づきます。  
 ⑥: 定格電流は実力値を示し, 規格標準値とは異なります。  
 ⑦: 配電系統ITシステムは適用できません。  
 ⑧: 開閉耐久試験に基づく期待寿命です。実使用上における寿命または耐久性は, 使用環境, 条件によって異なります。6章「保守点検と付属品交換」を参照下さい。

遮断器は、表4に示す環境でご使用下さい。

表4 遮断器の使用環境

標準環境 (標準品)	標高	2000m以下
	周囲温度	-5°C~40°Cの範囲内
	相対湿度	85%以下で結露のないこと。
	振動	0.7G以下
	衝撃	200m/s <sup>2</sup> (20G) 以下
	雰囲気	過度の水蒸気, 油蒸気, 煙, 塵埃, 腐食性ガスが存在しないこと。急激な温度変化による結露や氷結のない雰囲気。アンモニア (NH <sub>3</sub> ): 0.5ppm以下, 硫化水素 (H <sub>2</sub> S), 亜硫酸ガス (SO <sub>2</sub> ), 及び塩化水素 (HCl): 0.1ppm以下, 塩素ガス (Cl <sub>2</sub> ): 0.05ppm以下
特殊環境用 (オプション)	熱帯処理品	標準品に対し, 周囲温度: 60°C以下, 相対湿度: 95%RH以下 (結露しないこと) のみ異なる。
	耐寒処理品	標準品に対し, 周囲温度使用時: -25°C以上, 保管時: -40°C以上 (結露・氷結しないこと) のみ異なる。
	耐食増処理品	標準品に対し, 雰囲気NH <sub>3</sub> : 50ppm以下, H <sub>2</sub> S: 10ppm以下, SO <sub>2</sub> 及びHCl: 5ppm以下, Cl <sub>2</sub> : 1ppm以下のみ異なる。

遮断器の耐電圧性能，絶縁抵抗値を表5に示します。

<b>⚠注意</b>
●耐電圧，絶縁抵抗試験は，規定値と異なる条件で行わないで下さい。故障のおそれがあります。

表5 遮断器の耐電圧性能，絶縁抵抗値

回路		耐電圧 (50/60Hz)			耐インパルス 電圧 $U_{imp}$	絶縁抵抗値 DC500Vメガー	
主回路		極間，端子一括と大地間	AC3500V	1分間	12kV	300M $\Omega$	
		端子一括と大地間	AC2500V	1分間	6kV	100M $\Omega$	
制御回路	補助スイッチ	一般用	端子一括と大地間	AC2000V	1分間	4kV	100M $\Omega$
		微小負荷用	端子一括と大地間	AC2000V	1分間	4kV	100M $\Omega$
	過電流引外し装置	端子一括と大地間	AC2000V	1分間	4kV	100M $\Omega$	
		端子一括と大地間	AC2500V	1分間	6kV	100M $\Omega$	
その他付属装置		端子一括と大地間	AC2000V	1分間	4kV	100M $\Omega$	

TemPower2新品時の値です。遮断器内の器具端子は除きます。絶縁抵抗値の測定は，DC500V絶縁抵抗計（メガー）をご使用下さい。

遮断器の内部抵抗，消費電力を表6に示します。

表6 遮断器の内部抵抗，消費電力

形式	AR206E	AR208E	AR210E	AR212E	AR216E
フレームサイズ (A)	630	800	1000	1250	1600
直流内部抵抗 (m $\Omega$ ) (1極の値)	0.027	0.027	0.027	0.024	0.024
交流消費電力 (W) (3極の値)	45	75	120	175	260

遮断器は，周囲温度によって，表7の電流値でご使用下さい。

表7 遮断器の周囲温度による電流低減

形式	規格	接続導体サイズ 周囲温度 (°C)	AR206E	AR208E	AR210E	AR212E	AR216E
			2×40×5t	2×50×5t	2×60×5t	2×80×5t	2×100×5t
IEC60947-2 EN60947-2 AS3947-2 JISC8201-2-1	40 (周囲基準温度)		630	800	1000	1250	1600
	45		630	800	1000	1250	1530
	50		630	800	1000	1250	1470
	55		630	800	1000	1250	1400
	60		630	800	970	1210	1330
JEC-160	40 (周囲基準温度)		630	800	1000	1250	1450
	45		630	800	970	1230	1390
	50		630	800	930	1170	1330
	55		630	770	890	1120	1270
	60		620	730	840	1060	1220

注：主回路端子が電源側，負荷側とも水平端子の場合です。上記数値は配電盤の構造により異なります。

### 3-2. 概観

遮断器の概観を図4に示します。



① 遮断器	操作機構，投入コイル，電氣的引外し装置，⑪過電流引外し装置，⑲主回路端子，⑮制御回路端子，⑯補助スイッチ等を内臓しています。
② OFFボタン	遮断器を手動で開路するときに押します。
③ ONボタン	遮断器を手動で閉路するときに押します。
④ 開閉インジケータ	開路のとき「OFF」，閉路のとき「ON」が表示されます。
⑤ チャージインジケータ	投入スプリングがチャージされているとき「CHARGED」，チャージされていないとき「DISCHARGED」が表示されます。
⑥ チャージングハンドル	手動で投入スプリングをチャージ操作する際に使用します。
⑦ OFFロック板	南京錠（φ6，ご用意下さい）の施錠により，遮断器を開路状態にロックできます。
⑧ 開閉ボタンカバー	不用意な開閉操作を防止します。南京錠（φ6，ご用意下さい）で施錠できます。南京錠は最大3個まで施錠できます。
⑨ 開閉回数計 （オプション）	閉路から開路までを1回として遮断器の開閉回数を表示します。
⑩ OCRカバー	⑪過電流引外し装置の不用意な設定変更を防止します。南京錠（φ6，ご用意下さい）の施錠により，設定をロックできます。
過電流引外し装置 ⑪（OCR） （オプション）	主回路の過電流等を遮断器本体の主回路に取付けられた過電流引外し用CTにより検知し，引外しコイル（MHT）に引外し指令を出力します。
⑫ フロントカバー	遮断器本体前面を覆うプラスチックカバーです。
⑬ 定格銘板	形式，適用規格，定格遮断容量等を記載しています。
⑭ 仕様銘板	極数，操作方式，付属品，製造番号等を記載しています。
⑮ 制御回路端子	外部制御電線を接続する端子です。端子形状はM4ねじ端子です。図5に制御回路端子を示します。

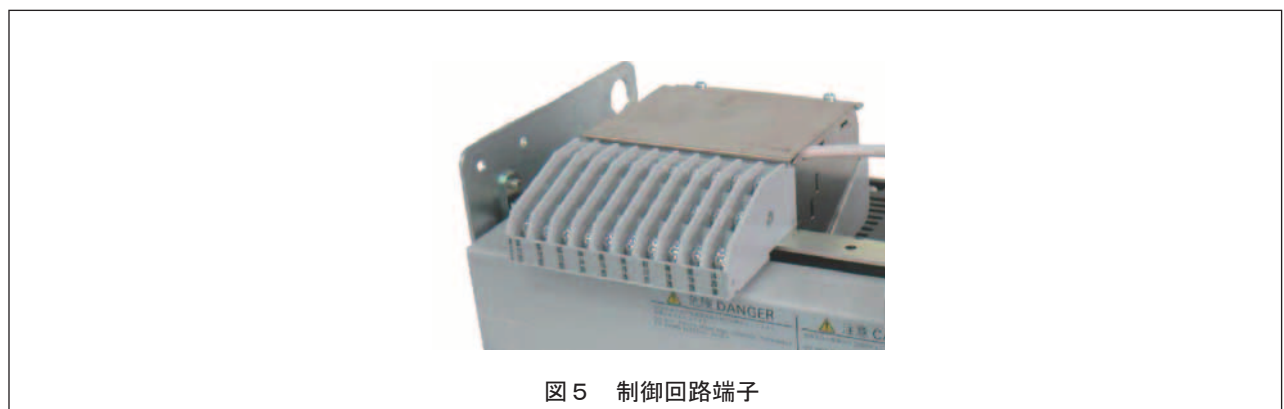


図5 制御回路端子

⑯ 補助スイッチ （オプション）	遮断器の開閉状態を電氣的に表示します。スイッチは4C（標準），7Cまたは10C接点（御注文時の御指定によります）構成，端子形状はM4ねじ端子です。
⑰ 端子台	⑮制御回路端子，⑯補助スイッチが取付けられています。
⑱ アース端子 M8タップ穴	アース端子を取付けることができます。
⑲ 主回路端子	外部導体を接続する端子です。図6に示す3つの端子形態があります。



垂直端子



水平端子



表面端子

図6 主回路端子形態

---

⑳ リフト穴  
(φ 20 mm)

---

---

吊り上げ金具，ワイヤロープ等を掛けて遮断器を吊り上げ，運搬できます。

---

### 3-3. 回路と定格

遮断器の回路を図7に、端子番号の機能・回路記号の意味を表8、図8に示します。

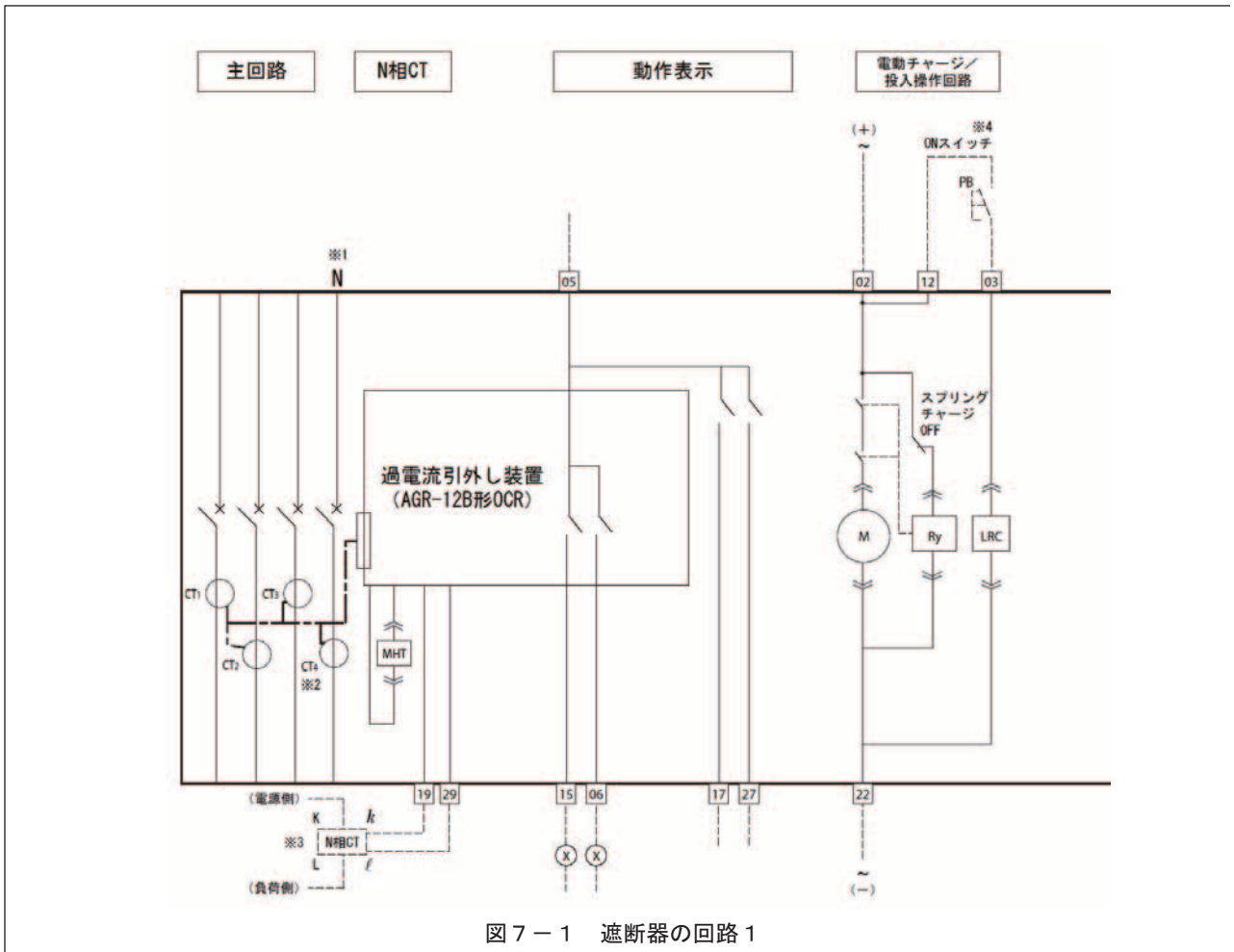


図7-1 遮断器の回路1

表8-1 端子番号の機能と回路記号の意味1 (ACは50/60Hz共用。⊕, ⊖はDC時の極性を示す。)

端子番号	機能				
02 ⊕, 22 ⊖	AC100V, AC110V, AC120V, AC200V, AC220V, AC240V DC24V, DC48V, AC100V, DC110V, DC125V, DC200V, DC220Vのいずれか (ご注文時ご指定事項)	操作電源入力端子			
03, 12	ONスイッチ	操作スイッチ取付端子			
05, 15	一括表示	動作表示接点出力端子			
05, 06	PTA動作表示				
05, 17	トリップ動作表示				
05, 27	スプリングチャージ表示				
10, 20	AC100V, AC110V, AC120V, AC200V, AC220V, AC240V DC24V, DC48V, DC100V, DC110V, DC125V, DC200V, DC220Vのいずれか (ご注文時ご指定事項)	瞬時定格電圧引外し電源 入力端子			
08, 09, 18, 28	AC100Vユニット, AC200Vユニット, またはAC400Vユニットのいずれか (ご注文時ご指定事項) 下表により, 回路電圧に合う端子番号に接続	不足電圧引外し電源 入力端子			
	端子番号		AC100Vユニット	AC200Vユニット	AC400Vユニット
	08, 09		AC100V	AC200V	AC380V
	18, 09		AC110V	AC220V	AC415V
28, 09	AC120V	AC240V	AC440V		
24, 30	OFFスイッチ	不足電圧引外し			
19, 29	極性: 19-k, 29-l	N相CT接続端子※3			
01 04 07 11 13 14 16 21 23 25 26	-	空き端子			

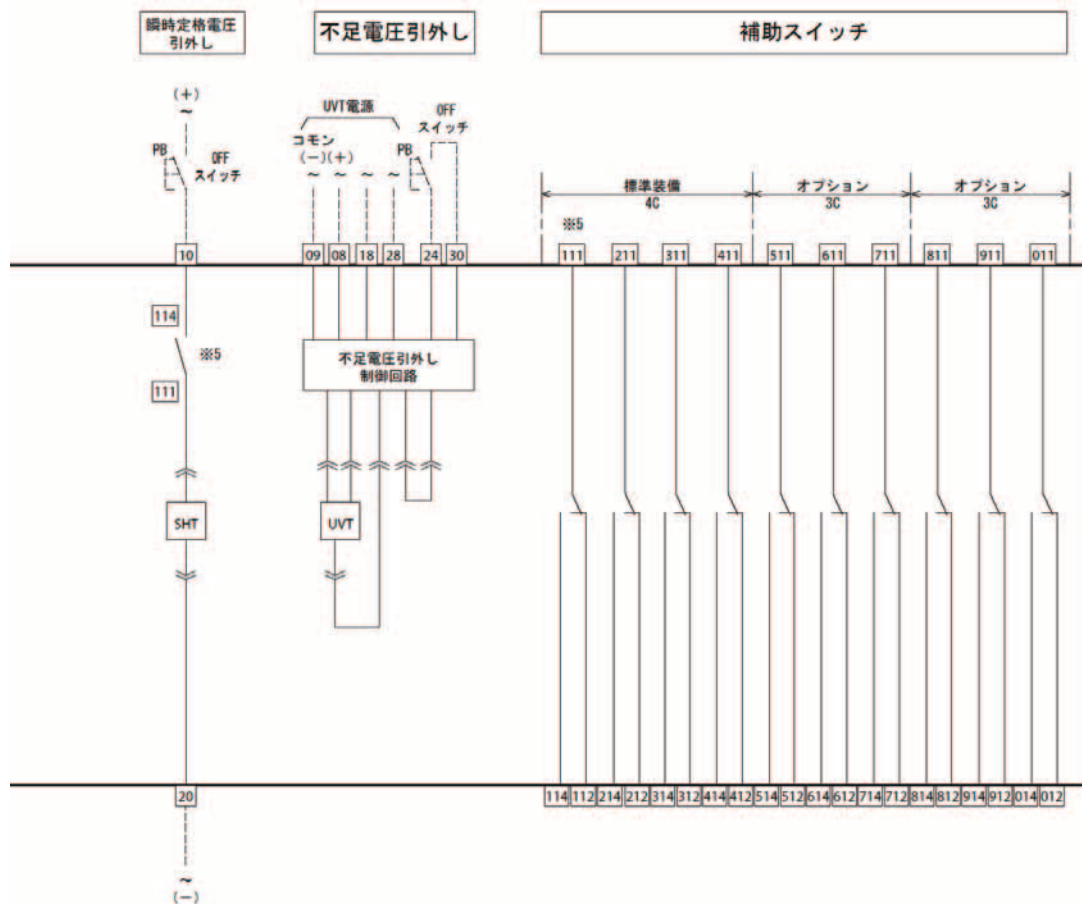


図 7-2 遮断器の回路 2

表 8-2 端子番号の機能と回路記号の意味 2

記号	意味	記号	意味
CT <sub>1</sub> ~CT <sub>4</sub>	過電流引外し用 CT ※6	SHT	瞬時定格電圧引外し装置 ※5
MHT	引外しコイル	UVT	不足電圧引外し装置
M	チャージングモータ	—<<<—	手動コネクタ
Ry	制御リレー	-----	ユーザー配線
LRC	投入コイル	--(X)--	リレーまたは表示ランプ

- ※1: 4極形遮断器に装備されます。
- ※2: 4極形遮断器で、N相保護、地絡引外し機能またはその両方を適用する場合に装備されます。
- ※3: 3相4線式回路に、地絡引外し機能付の3極形遮断器を設置する場合に適用します。
- ※4: ONスイッチとシリーズに補助スイッチ b 接点を接続しないで下さい。ボンピングの可能性があります。
- ※5: 焼損防止のため標準装備の補助スイッチの端子 111 と 114 に接続します。
- ※6: 過電流引外し装置の作動・引外し動作電源と主回路電流値信号を出力します。 変換比: CT 定格一次電流 I<sub>n</sub> (A) / 100mA

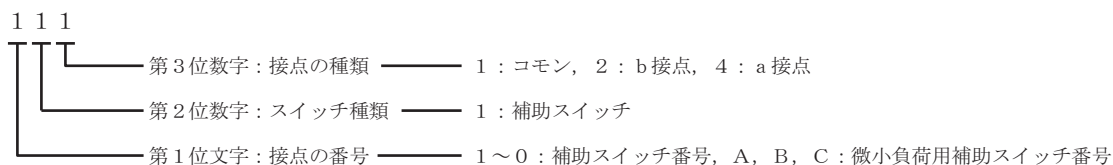
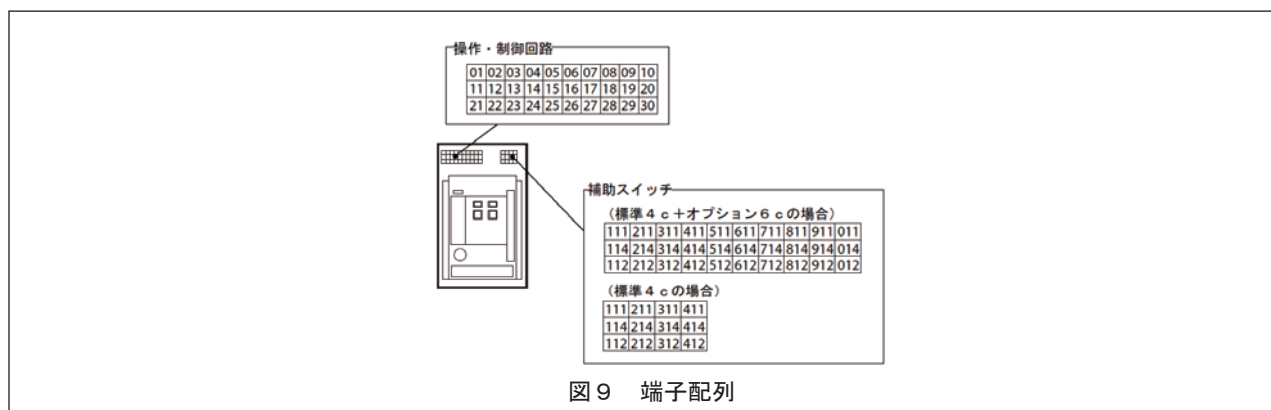


図 8 補助スイッチの端子番号と機能



遮断器の端子配列を図9に示します。



操作電源、瞬時定格電圧引外し装置（SHT）、不足電圧引外し装置（UVT）、補助スイッチ、動作表示接点、N相CTの定格を表9～表14に示します。

表9 操作電源の定格

定格電圧 (V)	チャージ・ON操作可能電圧 (V)	操作電源の定格			
		モータ始動時ピーク電流 (A)	モータ定常時電流 (A)	投入指令時ピーク電流 (A)	投入コイル (LRC) 抵抗値 (Ω) ※
AC100	85-110	7	1.1	0.29	300-380
AC110	94-121	7	1.1	0.25	350-440
AC120	102-132	7	1.1	0.22	440-540
AC200	170-220	4	0.7	0.15	1130-1390
AC220	187-242	4	0.7	0.13	1410-1740
AC240	204-264	4	0.7	0.11	1710-2090
DC24	18-26	14	4	1.04	20-26
DC48	36-53	10	1.6	0.51	85-105
DC100	75-110	6	0.8	0.25	350-440
DC110	82-121	6	0.8	0.22	440-540
DC125	93-138	6	0.8	0.21	540-680
DC200	150-220	4	0.5	0.13	1410-1740
DC220	165-242	4	0.5	0.12	1710-2090

※周囲温度20℃での値です。

表10 瞬時定格電圧引外し装置（SHT）の定格

定格電圧 (V)	操作可能電圧 (V)	励磁電流最大値 (A)	コイル抵抗値 (Ω) ※	最大開極時間 (ms)
AC100	70-110	1.6	32-40	40
AC110	77-121	1.8	32-40	
AC120	84-132	1.9	32-40	
AC200	140-220	0.63	135-170	
AC220	154-242	0.69	135-170	
AC240	168-264	0.76	135-170	
DC24	16.8-26.4	2.4	8.9-11	
DC48	33.6-52.8	1.3	32-40	
DC100	70-110	0.64	135-170	
DC110	77-121	0.70	135-170	
DC125	87.5-137.5	0.80	135-170	
DC200	140-220	0.33	540-670	
DC220	154-242	0.36	540-670	

※周囲温度20℃での値です。

表 1 1 不足電圧引外し装置 (UVT) の定格

定格電圧 (V)	開離電圧 (V)	吸引電圧 (V)	コイル励磁電流 (A)	消費電力 (VA)		コイル抵抗値 (Ω) ※
				常時	吸引時	
AC100	35-70	85	0.1	8	10	保持コイル : 410-510 吸引コイル : 5.6-6.8
AC110	38.5-77	93.5				
AC120	42-84	102				
AC200	70-140	170				
AC220	77-154	187				
AC240	84-168	204				
AC380	133-266	323				
AC415	145-290	352				
AC440	154-308	374				
DC24	8.4-16.8	20.4				
DC48	16.8-33.6	40.8				
DC100	35-70	85				

※周囲温度20°Cでの値です。

表 1 2 補助スイッチの定格

電圧 (V)	補助スイッチ			
	一般用		微小負荷用	
	抵抗負荷 (A)	誘導負荷 (A) ※ 1	抵抗負荷 (A)	誘導負荷 (A) ※ 2
AC100-250	5	5	0.1	0.1
AC251-500	5	5	-	-
DC30	1	1	0.1	0.1
DC125-250	1	1	-	-

※ 1 : AC  $\cos \phi = 0.3$ 以上, DC L/R=0.007以下

※ 2 : AC  $\cos \phi = 0.3$ 以上, DC L/R=0.01以下

※ 3 : 最小適用負荷 : DC5V 1mA

表 1 3 動作表示接点の定格

電圧 (V)	接点定格電流 (A)			
	一括表示		スプリングチャージ, トリップ動作	
	抵抗負荷 (A)	誘導負荷 (A) ※ 1	抵抗負荷 (A)	誘導負荷 (A) ※ 2
AC250	3	3	3	3
DC30	3	3	3	2
DC125	0.5	0.25	0.5	0.5
DC250	0.3	0.15	0.1	0.1

※ 1 : AC  $\cos \phi = 0.3$ 以上, DC L/R=0.007以下

※ 2 : AC  $\cos \phi = 0.3$ 以上, DC L/R=0.01以下

※ 3 : 最小適用負荷 : DC5V 1mA

表 1 4 N相CTの形式と定格

遮断器形式	N相CT形式	CT定格
AR206E	T2GB40N06A	630A/100mA
AR208E	T2GB40N08A	800A/100mA
AR210E	T2GBX6N10A	1000A/100mA
AR212E	T2GBX6N12A	1250A/100mA
AR216E	T2GBX6N16A	1600A/100mA

## 4. 操作と動作

### 4-1. チャージ, 開閉操作

#### ⚠危険

●主回路端子部や制御回路端子部に触れないで下さい。感電のおそれがあります。

#### ⚠注意

- 手動チャージ操作の完了後は、無理にチャージングハンドルを押し下げないで下さい。故障の原因となります。
- 電動チャージ形に装備されるチャージングモータの操作可能電圧範囲は、交流の場合操作電源定格電圧の85～110%、直流の場合は75～110%です。必ず範囲内の電圧を与えて下さい。範囲外の電圧での電動チャージ操作は、焼損の原因となります。
- 電動チャージ操作による遮断器の連続開閉操作は、15回以内として下さい。連続15回の開閉操作を行った場合は、20分以上の休止時間を与えて下さい。チャージングモータ焼損の原因となります。
- 通電中、ガス排出口に手や顔を近づけないで下さい。電流遮断時、高温ガスが吹き出し、火傷のおそれがあります。
- 自動的に遮断器が引外し動作（トリップ）した場合は、原因を取り除いてから閉路して下さい。火災のおそれがあります。

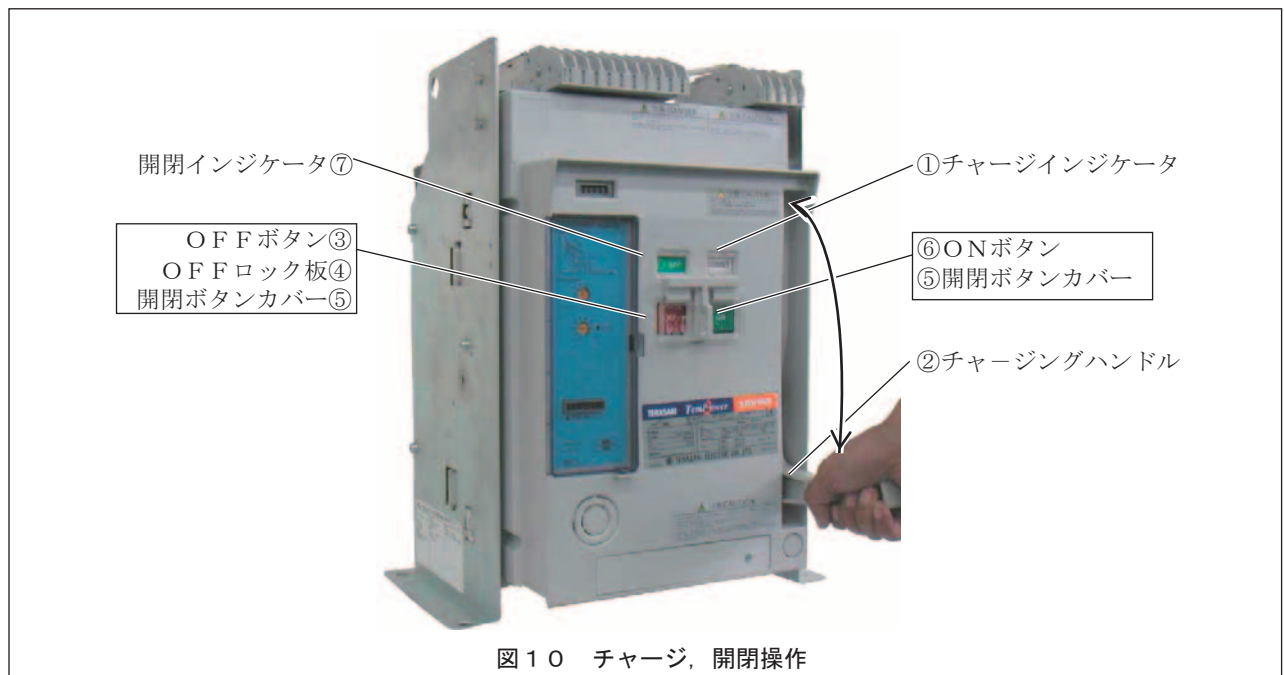
遮断器は、投入スプリングの蓄勢方法及び遠隔からの開閉操作の有無によって、手動チャージ形と電動チャージ形に分かれます。手動チャージ形は、チャージ操作、開閉操作を手動で行うことができ、電動チャージ形は、チャージ操作、開閉操作を電動、手動のいずれでも行うことができます。

#### 4-1-1. チャージ操作

遮断器は、投入スプリングのチャージによってはじめて閉路操作が可能になります。そのため、必ず閉路操作の前にチャージ操作を行ってください。また、チャージ操作は、遮断器の状態が開路、閉路のいずれでも行えます。以下の要領でチャージ操作を行ってください。

##### ●手動チャージ操作

チャージインジケータ（図10①）の表示が「DISCHARGED」から「CHARGED」に変わるまで、チャージングハンドル（図10②）を前に倒して戻す操作を繰り返します。チャージングハンドルの最大操作範囲 約90°でチャージ操作すると、6～8回程度の操作でチャージは完了します。



## ●電動チャージ操作

規定の操作電源電圧が制御回路端子⑧，⑨間に与えられているとき，チャージインジケータ（図10①）が閉路操作等により「DISCHARGED」に変わると，直ちにチャージングモータが駆動し，投入スプリングのチャージが行われます。チャージが完了すると，チャージインジケータに「CHARGED」が表示され，チャージングモータは自動的に停止します。チャージ時間は，操作電源電圧や遮断器形式により異なりますが，約10秒以内です。

## 4-1-2. 閉路操作

遮断器は，下記条件を全て満たしてはじめて閉路することができます。

- 1) チャージインジケータ（図10①）が「CHARGED」であること。
- 2) OFFボタン（図10③）がOFFロック板（図10④）でロックされていないこと。
- 3) 不足電圧引外し装置付の場合，装置に規定の電圧が与えられていること。

## ●手動閉路操作

開閉ボタンカバー（図10⑤）を開けてONボタン（図10⑥）を押して下さい。遮断器は音を立てて閉路し，開閉インジケータ（図10⑦）に「ON」，チャージインジケータ（図10①）には「DISCHARGED」が表示されます。

## ●電氣的閉路操作

図7に示す「ONスイッチ」を押して下さい。投入コイル（LRC）（図7）が励磁され，遮断器は音を立てて閉路します。開閉インジケータ（図10⑦）に「ON」，チャージインジケータ（図10①）には「DISCHARGED」が表示され，直ちにチャージングモータが駆動し，投入スプリングのチャージが行われます。

## 4-1-3. 開路操作

### ●手動開路操作

開閉ボタンカバー（図10⑤）を開けてOFFボタン（図10③）を押して下さい。遮断器は音を立てて開路します。開閉インジケータ（図10⑦）には「OFF」が表示されます。

### ●電氣的開路操作

図7に示す「OFFスイッチ」を押して下さい。瞬時定格電圧引外し装置（SHT）または不足電圧引外し装置（UVT）（図7）が励磁され，遮断器は音を立てて開路します。開閉インジケータ（図10⑦）には「OFF」が表示されます。

## 4-1-4. トリップ表示スイッチ，スプリングチャージ表示スイッチの動作

トリップ表示スイッチ，スプリングチャージ表示スイッチは，遮断器の状態を表15に示すように接点出力します。

表15 トリップ表示スイッチ，スプリングチャージ表示スイッチの動作

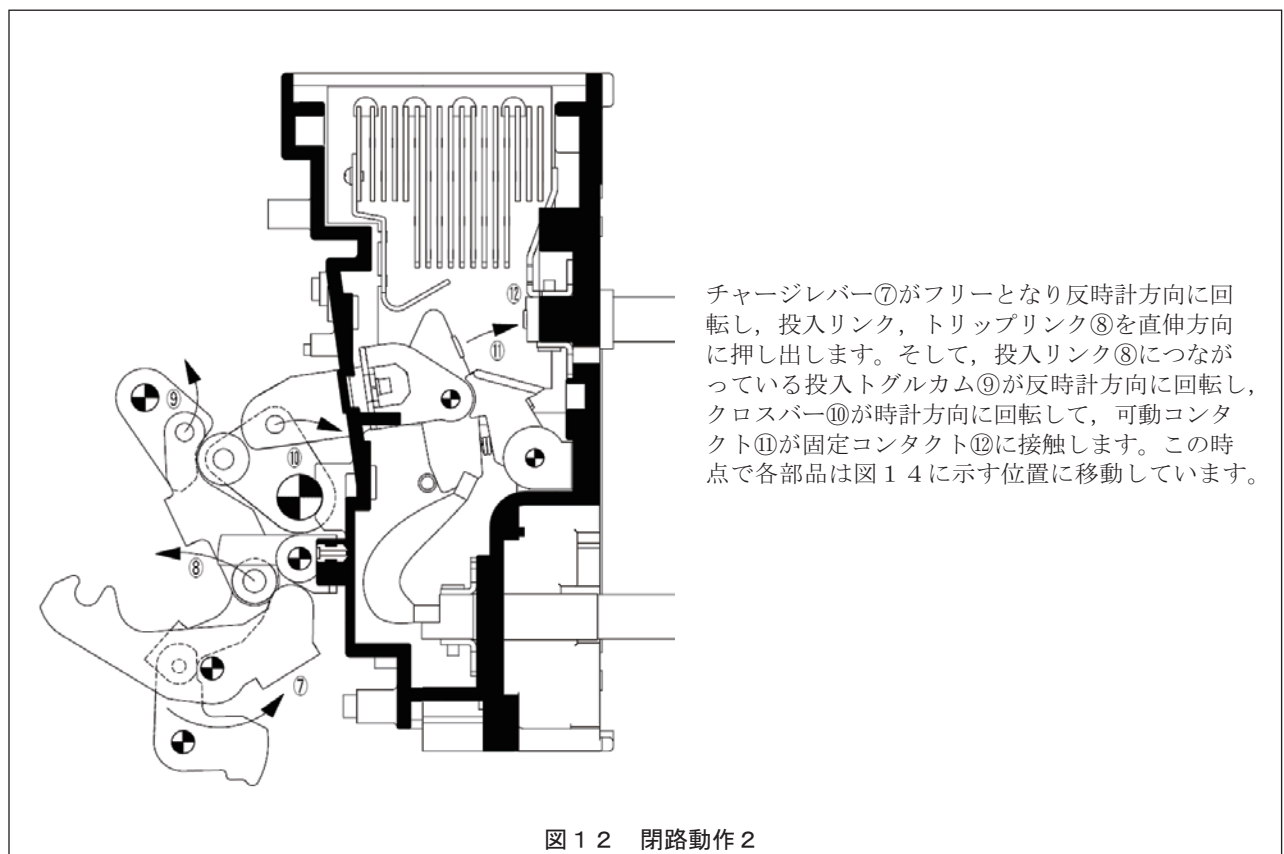
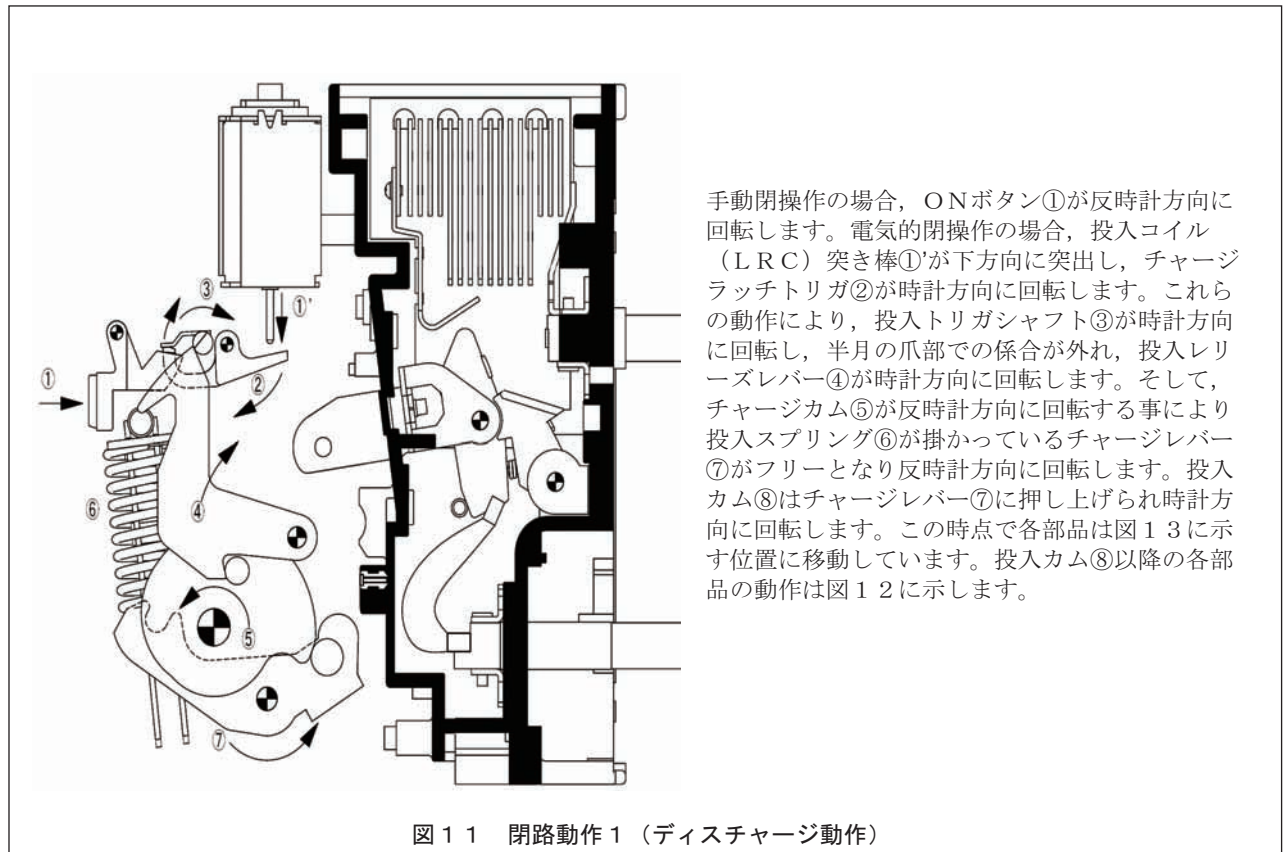
OCR形式	動作の種類	接点出力						
		端子番号 図7 参照	状態				遮断器開路	
			投入スプリング		遮断器閉路時	閉路準備完了時※		
			チャージ時	ディスチャージ時		閉路準備未完時※	閉路準備完了時※	
全て	トリップ	05, 17	変化なし	変化なし	オフ	オン	オフ	
	スプリングチャージ	05, 27	オン	オフ	変化なし	変化なし	変化なし	

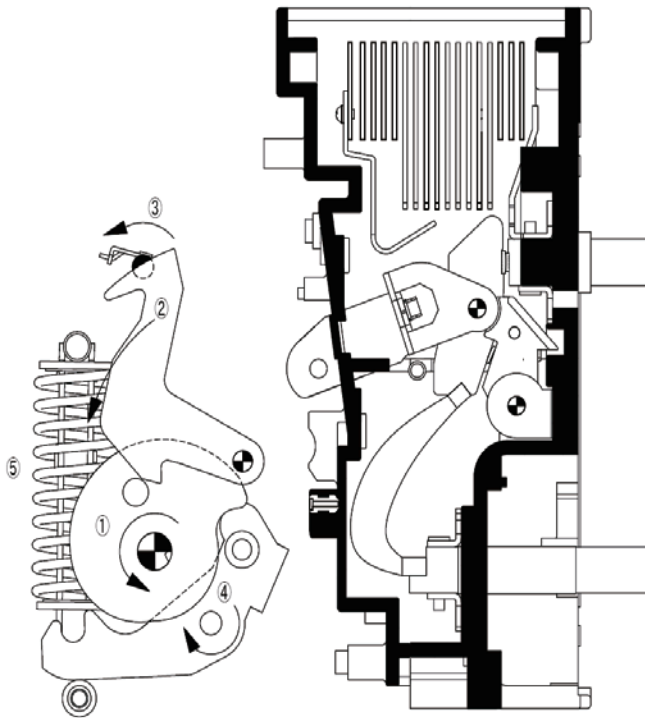
※閉路準備完了とは，以下の4条件を全て満たすことを言います。

1. 投入スプリングがチャージされていること。
2. 開路動作が完了していること（引外し指令出力から40ms）。
3. OFFボタンが復帰していること。
4. 不足電圧引外し装置付の場合，UVT電源電圧が復帰していること。

#### 4-1-5. 操作機構部の動作

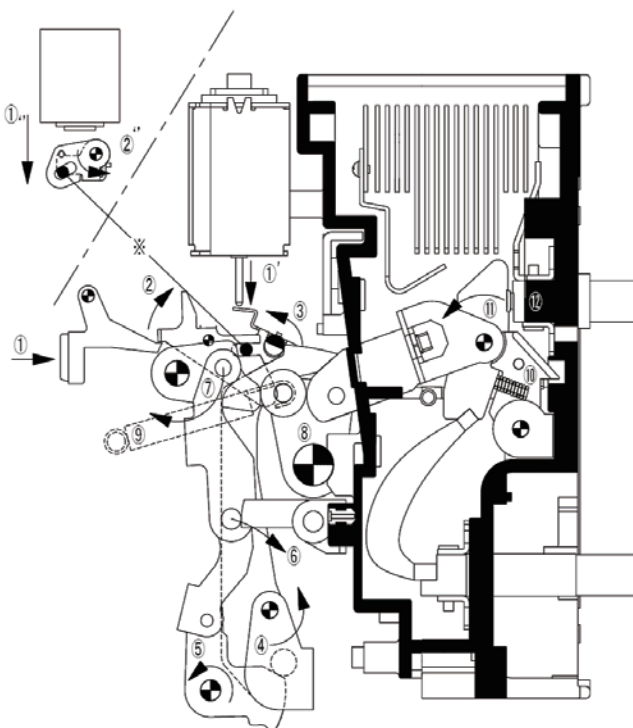
遮断器がチャージ，開閉動作する際の，遮断器内部の操作機構部の動作を図11～14に示します。





手動チャージの場合はチャージングハンドルの動きにより、電動チャージの場合はチャージングモータの動きにより、チャージカム①が反時計方向に回転します。これらの動作により投入リリースレバー②が反時計方向に回転し、投入トリガシャフト③が反時計方向に回転して、半月の爪部が投入リリースレバー②とかかり合います。また、チャージレバー④が時計方向に回転することにより、投入スプリング⑤を圧縮します。この時点で各部品は図 1 1 に示す位置に移動しています。

図 1 3 チャージ動作

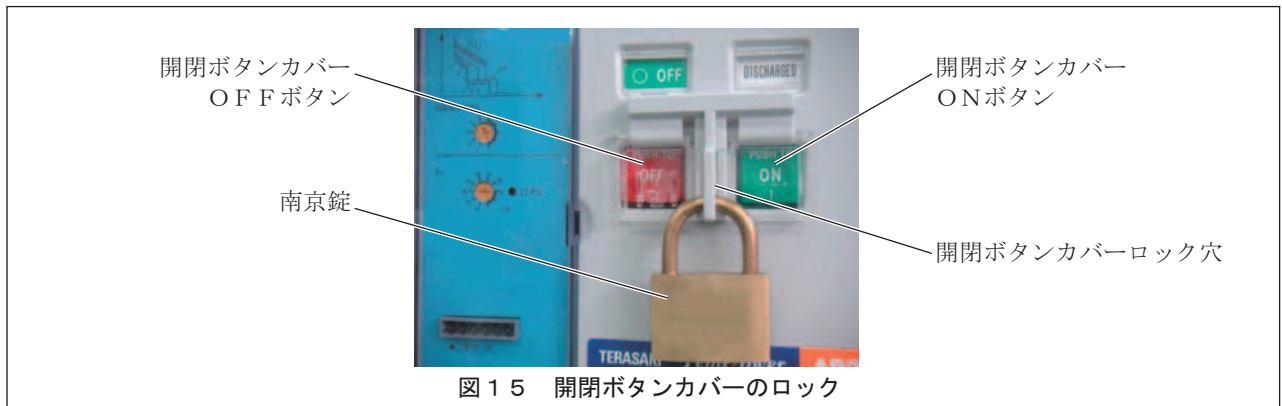


手動開操作の場合、OFF ボタン①が反時計方向に回転し、トリップ連結②が時計方向に回転します。電氣的開操作の場合、瞬時定格電圧引外し装置 (SHT) または不足電圧引外し装置 (UVT) の突き棒①'が下方方向に突出します。過電流引外し装置 (OCR) による引外しの場合、引外しコイル (MHT) 可動コア①''が下方方向に突出し、トリップレバーM、トリップ連動レバー②''が反時計方向に回転します。(※部は同一部品「トリップピン」です。引外しコイル関連部は図の重なりを避けるため、実際とは異なる位置に表現しています。) これらの動作により、トリップトリガシャフト③が反時計方向に回転し、半月の爪部での係合が外れ、トリップレバーB④が反時計方向に回転します。その後トリップレバーA⑤が反時計方向に回転し、投入リンク、トリップリンク⑥が右下方向に折れながら下がり投入トルカム⑦が時計方向に回転します。クロスバー⑧は遮断スプリング⑨、コンタクトスプリング⑩のエネルギーにより反時計方向に回転し、可動コンタクト⑪が固定コンタクト⑫から開離します。この時点で各部品は図 1 2 に示す位置に移動しています。

図 1 4 開路動作

## 4-2. 開閉ボタンカバーのロック操作

図15に示す開閉ボタンカバーロック穴に、南京錠（シャックル径φ6，最大3個まで施錠可能）のシャックルを通し、施錠します。開閉ボタンカバーは拘束され、ONボタン，OFFボタンが押せなくなります。



## 4-3. ロックインオフ操作

- 1) 図16に示すOFFボタン側の開閉ボタンカバーを開きます。
- 2) OFFロック板を倒し，開閉ボタンカバーを閉じます。
- 3) 開閉ボタンカバーロック穴に，南京錠（シャックル径φ6，最大3個まで施錠可能）のシャックルを通し，施錠します。開閉ボタンカバーは拘束され，OFFボタンが押し込まれたままになり，ON操作はできなくなります。



## 4-4. OCRカバーのロック操作

図17に示すOCRカバーロック穴に、南京錠（シャックル径φ6）のシャックルを通し、施錠します。OCRカバーは開けることができなくなり、OCR設定値が変更できなくなります。



図17 OCRカバーのロック

## 5. 過電流引外し装置（OCR）

AR形気中遮断器は、制御演算部に16bitCPUを用いた、高信頼のAGR形過電流引外し装置（以下OCRと呼びます）を装備できます。

本OCRには、過電流引外し用CTからOCRの作動・引外し動作電源と主回路電流値信号が入力されます。OCRが異常を検知すると、異常の種類によって引外しコイル（MHT）への引外し指令の出力、引外し・警報等の表示が行われます。本OCRの長限時引外し（LT）、N相保護（NP）、プレトリップアラーム（PTA）は、実効値制御方式です。遮断器に高調波電流が継続流入しても、常時実効値を演算・制御し、正常に動作します。

本OCRは、下記基本形式を持っています。

- AGR-12BL（L特性） 一般保護用（工場、変圧器保護用）

### 5-1. 仕様一覧

OCRの仕様を表16に示します。

表16 AGR-12B形OCRの仕様一覧（●：標準装備，○オプション，－：適用できません）

用途		一般保護用		参照
種類		L特性		
過電流引外し装置（OCR）形式		AGR-12BL-AL	AGR-12BL-GL	
保護機能	長限時引外し（LT）	●	●	5-2.
	短限時引外し（ST）	●	●	
	瞬時引外し（INST）	●	●	
	地絡引外し（GF）	●	●	
	N相保護（NP）	○	○	
	プレトリップアラーム（PTA）	○	○	
動作表示機能	一括表示LEDランプと接点出力	●	●	5-4.
試験機能		－	－	－
制御電源		不要	不要	3-3.



## 5-2. 特性一覧

### 5-2-1. 一般保護用L特性

AGR-12BL (L特性) 形OCRの概観を図18, 設定値を表17, 特性を図19に示します。

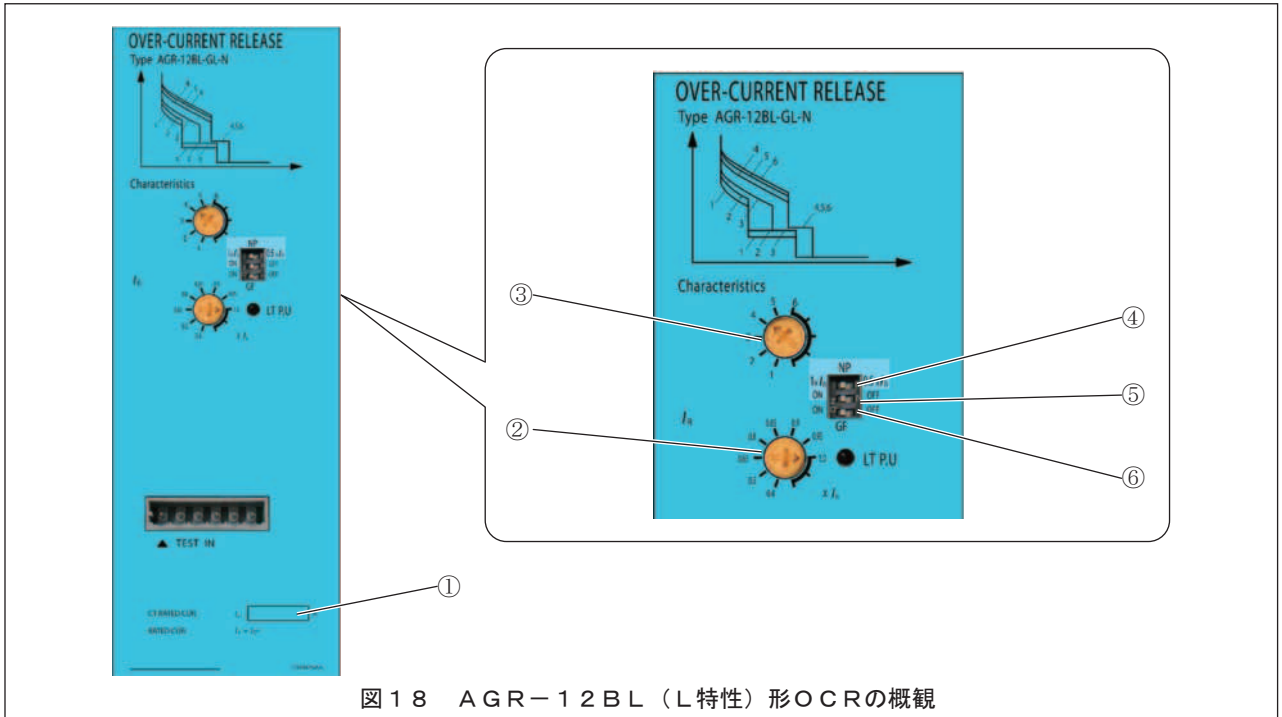
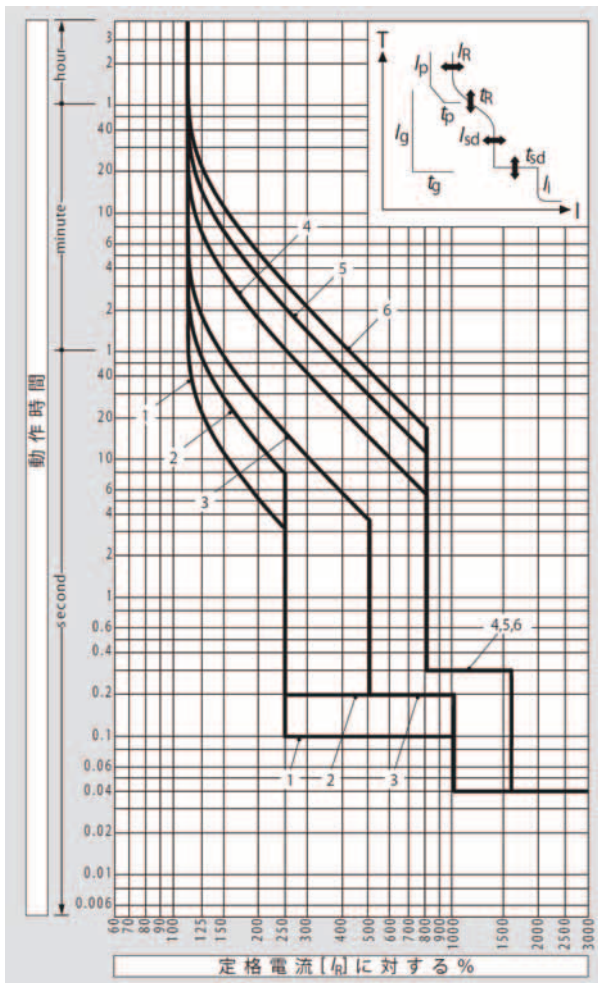


図18 AGR-12BL (L特性) 形OCRの概観

表17 AGR-12BL (L特性) 形OCRの設定値

番号	設定項目	記号	設定範囲
①	定格電流 (A)	$I_n$	$I_n = I_{CT}$ (630A, 800A, 1000A, 1250A, 1600A)
②	長限時引外し 設定電流 (A) $\times [I_n]$	$I_R$	定格電流 $[I_n] \times (0.4-0.5-0.63-0.8-0.85-0.9-0.95-1.0)$ (A)
			AR206E 250 320 400 500 540 570 600 630
			AR208E 320 400 500 640 680 720 760 800
			AR210E 400 500 630 800 850 900 950 1000
			AR212E 500 630 800 1000 1050 1100 1200 1250
			AR216E 640 800 1000 1250 1350 1450 1500 1600
③	特性	---	$[I_R] \times 1.05$ 以下で不動作, $[I_R] \times 1.05$ を越え1.2以下のピックアップ電流値で引外し動作
長限時引外し 設定時限 (sec)	$t_R$	1 2 3 4 5 6	5.3 13.3 26.3 10 20 30
		$[I_R] \times 200\%$ における時限 $[I_R] \times 600\%$ における時限	
短限時引外し 設定電流 (A) $\times [I_R]$	$I_{sd}$	誤差 $\pm 20\% + 0.15\text{sec} - 0\text{sec}$	
		2.5 2.5 5 8 8 8	短限時設定電流: $[I_R] \times [I_{sd}]$ , 誤差 $\pm 15\%$
短限時引外し 設定時限 (msec)	$t_{sd}$	100 200 200 300 300 300	
		不動作時間	75 175 175 275 275 275
		最大全遮断時間	170 270 270 370 370 370
瞬時引外し 設定電流 (A) $\times [I_R]$	$I_l$	誤差 $\pm 20\%$	
		10 10 10 16 16 16	
地絡引外し 設定電流 (A)	$I_g$	$[I_n] \times 0.2$ の一点固定設定 (A) 誤差 $\pm 20\%$	
		⑥ ON/OFF 切替	
地絡引外し 設定時限 (msec)	$t_g$	200	
		不動作時間	
		175	
N相保護 設定電流 (A)	$I_N$	270	
		④ $0.5 \times I_R$ または、 $1 \times I_R$ 切替	
N相保護 設定時限 (sec)	$t_N$	⑤ ON/OFF 切替	
		$[I_n] \times 1.05$ 以下で不動作, $[I_n] \times 1.05$ を越え1.2以下のピックアップ電流値で引外し動作	
プレトリップアラーム 設定電流 (A)	$I_P$	$[t_R] = [t_N]$ 長限時設定と同じ $[t_R] = [t_N]$ 長限時設定と同じ	
		$[I_n] \times 0.8$ の一点固定設定 (A)	
プレトリップアラーム 設定時限 (sec)	$t_P$	$[I_P] \times 1.05$ 以下で不動作, $[I_P] \times 1.05$ を越え1.2以下のピックアップ電流値で引外し動作	
		$0.5 \times [t_R] = [t_P]$ 長限時設定の0.5倍	
			誤差 $\pm 20\% + 0.1\text{sec} - 0\text{sec}$

- 設定値の  $\_$  (アンダーバー) は既定値です。
- ピックアップ電流値とは、OCRが過電流を判定する際のしきい値です。  $[I_R] \times 1.05 < (\text{ピックアップ電流値}) \leq [I_R] \times 1.2$  の範囲内にあり、ピックアップ電流値を越えると、OCRは引外しの為の時限の計測を始めます。電流が一旦ピックアップ電流値未満になると、時限の計測は解除されます。
- ② このダイヤルを変更すると、長限時設定電流、短限時設定電流、瞬時設定電流、N相保護設定電流、プレトリップアラーム設定電流も連動して変わります。
- ③ このダイヤルを変更すると、長限時設定、短限時設定、N相保護設定、プレトリップアラーム設定の特性も連動して変わります。
- ④ N相保護設定電流は、 $0.5 \times I_R$  または、 $1 \times I_R$  の設定変更が行えます。
- ⑤ OFF位置はN相保護機能を不動作にします。
- ⑥ OFF位置は地絡保護機能を不動作にします。



### 保護特性

記：1) 長限時，N相保護，プレトリップアラームの引外し電流－時間特性の動作時間 ( $t$ ) は次式で求められます。

長限時

(特性 1, 2, 3)  $t = -2.63 \times t_R \times \log_e \{ 1 - (1.125/r/i)^2 \} \pm 20\% + 0.15 - 0$  [秒]

(特性 4, 5, 6)  $t = -27.94 \times t_R \times \log_e \{ 1 - (1.125/r/i)^2 \} \pm 20\% + 0.15 - 0$  [秒]

$r$ : 設定電流,  $i$ : 過電流値,  $t_R$ : 設定時限

N相保護

(特性 1, 2, 3)  $t = -2.63 \times t_N \times \log_e \{ 1 - (1.125/N/i)^2 \} \pm 20\% + 0.15 - 0$  [秒]

(特性 4, 5, 6)  $t = -27.94 \times t_N \times \log_e \{ 1 - (1.125/N/i)^2 \} \pm 20\% + 0.15 - 0$  [秒]

$N$ : 設定電流,  $i$ : 過電流値,  $t_N$ : 設定時限

プレトリップアラーム

(特性 1, 2, 3)  $t = -2.63 \times t_P \times \log_e \{ 1 - (1.125/P/i)^2 \} \pm 20\% + 0.1 - 0$  [秒]

(特性 4, 5, 6)  $t = -27.94 \times t_P \times \log_e \{ 1 - (1.125/P/i)^2 \} \pm 20\% + 0.15 - 0$  [秒]

$P$ : 設定電流,  $i$ : 過電流値,  $t_P$ : 設定時限

図 19 AGR-12BL (L特性) 形OCRの保護特性

### 5-3. 特性設定方法

#### ⚠注意

- 過電流引外し装置の設定変更は、専門知識を有する人が行って下さい。
- 過電流引外し装置の設定を変更した後は、ANS2S形OCRチェック用変換器（別売）等による特性の確認を行ってください。
- 過電流引外し装置の特性設定スイッチ（ロータリスイッチ、スライドスイッチ）は、プラスドライバー、小形マイナスドライバーを軽く指先で持ち、適度の力で操作して下さい（0.1 N・m以下のトルクあるいは0.1 N以下）。過大なトルクあるいは力での操作は故障の原因となります。

OCRの設定方法を以下に示します。

- 1) 遮断器を開路します。
- 2) 図20に示すOCRカバーの右端のフロントカバーへこみに指を入れ、OCRカバーを左に押し開き止めの掛かりを外し、OCRカバーを開きます。OCRカバー施錠時は、開錠してからOCRカバーを開きます。



- 3) 特性の設定は、ステップ式ロータリスイッチとスライドスイッチで行います。図21にスイッチを示します。

- ステップ式ロータリスイッチは、プラスドライバーで回転操作して、ダイヤルの指示位置をクリック感のある設定目盛の位置で止めて目盛を合わせます。目盛と目盛の間では止めないで下さい。太線部の目盛は、同一の設定値です。
- スライドスイッチは、小形のマイナスドライバーでスイッチノブを右または左側にスライド操作して下さい。スイッチノブは、中間位置で止めないで下さい。



- 4) OCRカバーを閉じます。
- 5) 特性の設定変更をした後は、ANS2S形OCRチェック用変換器（別売）等による特性の確認を行うことをお勧めします。

## 5-4. 動作表示

OCRは、長限時ピックアップの動作を図22、表18に示すようにOCR上のLEDランプで表示し、また各種引外し動作を一括して接点出力します。

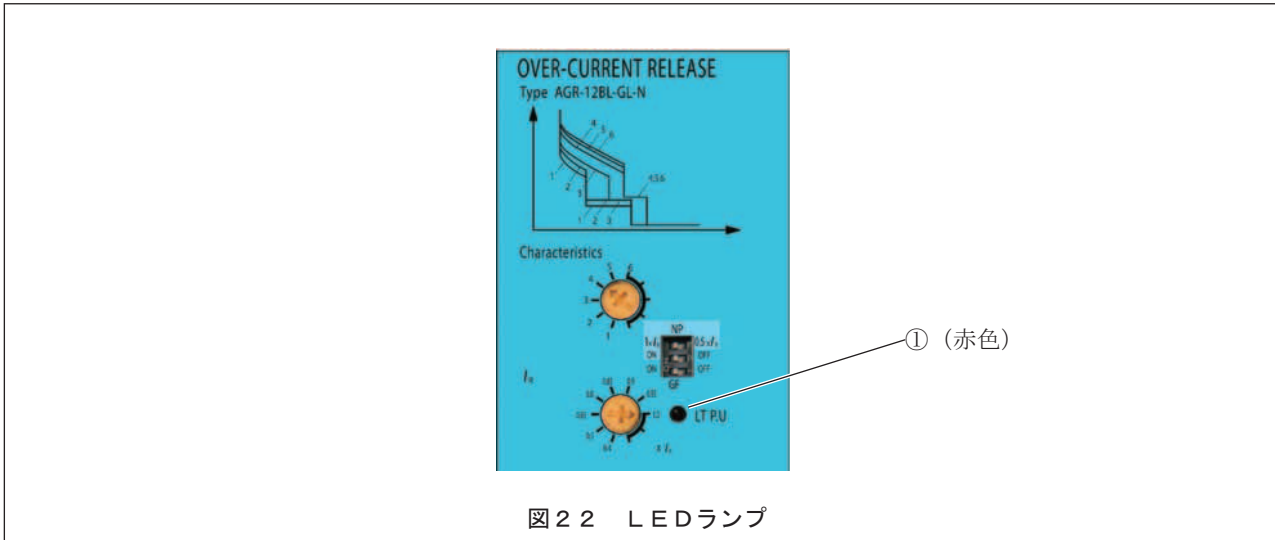


図22 LEDランプ

表18 動作表示

OCR形式	制御電源	動作の種類	LEDランプ			接点出力		
			位置	状態		端子番号 図7 参照	状態	
				正常 運転時	ピック アップ時		動作時	正常 運転時
AGR-12BL-AL AGR-12BL-GL	不要	長限時 (LT) ・ N相保護 (NP)	① 消灯	点灯	消灯	05, 15	オフ	40ms以上オンの後 自動オフ※1
		短限時 (ST) ・ 地絡 (GF)		-				
		瞬時 (INST) プレトリップ アラーム (PTA)		点滅	点滅	05, 06	オフ	オン

※1：自己保持回路をご用意下さい。

## 6. 保守点検と付属品交換

AR形気中遮断器の保守点検の要領について説明します。

気中遮断器の寿命または耐久性は、使用環境、条件によって異なりますが、開閉並びに負荷開閉の機能を果たす長期の過程で受ける環境ストレス及び機械的、電気的ストレスによって徐々に機能が低下し、時間の経過と共に機能障害を起こす確率が高まります。定期的な保守点検の実施は、機能低下、機能障害による異常の兆候・現象を早期に捕らえ、事故の発生を未然に防止し、運転の安全確保を図る上で非常に重要です。また、保守点検によって、気中遮断器の性能劣化の緩慢化、寿命の延命を図ることができます。

遮断器の点検保守頻度は、使用環境、動作回数、遮断電流の大きさなどによって異なり、個々の使用経験から決められるべき要素が多分に含まれています。しかし、一般的には表19の頻度で点検を実施することをお勧めします。具体的な保守点検の要領は、6-1.を参照下さい。付属品交換の要領は、6-2.を参照下さい。

表19 保守点検の頻度

使用環境	使用条件・設置場所	点検方式	点検頻度（期間・回数のいずれかが該当する場合）			
			期間	遮断器の開閉回数		
標準	塵埃が比較が少ない 腐食性ガスが少ない 周囲温度平均35℃以下 湿度が高くない 1日の開閉回数が2回以下 例) 電気室の配電盤 コントロール室内 ビル設備	一般・詳細	1～2年に1回 設置3年経過以降は1年に1回 設置6年経過以降は半年に1回	開閉条件 ほとんど無通電に近い電流領域 定格電流領域	800AF以下 1000回毎に1回 1000回毎に1回	1000AF～1600AF 500回毎に1回
		細密	5～6年に1回 設置6年経過以降は4年に1回 設置10年経過以降は1～2年に1回	4000回毎に1回		
		分解	一般点検・細密点検で異常が発見された場合			
特殊	塵埃が堆積する 腐食性ガスが多い 周囲温度平均45℃以上 湿度が高い 1日の開閉回数が4回以上 常に振動にさらされている 例) 鉄鋼・化学工場 機関室内（空調なし） コージェネ設備 フェリー	一般・詳細	1年に1回 設置2年経過以降は半年に1回	開閉条件 ほとんど無通電に近い電流領域 定格電流領域	800AF以下 1000回毎に1回 1000回を超えた場合は500回毎に	1000AF～1600AF 500回毎に1回 500回を超えた場合は250回毎に
		細密	2～3年に1回 設置6年経過以降は2年に1回 設置10年経過以降は1年に1回	2500～3000回毎に1回 3000回を超えた場合は2000回毎に		
		分解	一般点検・細密点検で異常が発見された場合			
異常	過負荷開閉 短絡遮断 災害等で冠水した場合	細密	異常発生するとき	開閉条件 過負荷（定格電流の6倍付近） 電流領域 過負荷領域を超える電流領域	800AF以下 25回毎に1回 その都度	1000AF～1600AF 25回毎に1回 その都度
		分解	細密点検で修理が可能と判断した場合			

- 一般点検は、機能の確認・維持を目的に、各部を分解することなく主として消弧室・コンタクト・フロントカバーを外す程度で行う点検、処置を言います。ユーザーで実施頂けます。弊社で実施させて頂くこともできます。
- 詳細点検は、一般点検で異常が認められた時、機能の確認・維持、経年劣化等による機能障害の未然防止を目的に行う点検、処置及び基準に基く部品交換を言います。弊社で実施させて頂くことをお勧めします。
- 細密点検は弊社で実施、分解点検は弊社工場で実施致します。

### ●寿命について

表3における開閉耐久回数の欄に、AR形気中遮断器の期待寿命を示します。ここでいう「保守有」とは、この章で述べる適切な保守点検、部品の交換・補修が行われた場合を指します。但し、定格遮断容量の電流で遮断動作を3回行った場合、1回遮断する度に細密点検を行っていたとしても、その遮断器は寿命となります（標準動作責務程度に相当する動作）。寿命となった遮断器が即使用不能になることはありませんが、故障が起りやすくなり、点検頻度を増やさねばならず、交換しなければならない部品も増えます。寿命となった遮断器は、できるだけ早く更新を実施頂く事をお勧めします。

## 6-1. 点検要領

### ⚠注意

- 保守点検・付属品交換は、専門知識を有する人が行って下さい。
- 通電停止（遮断器開路）直後は遮断器導電部、特にコンタクトや導電部に近接した構造物に触れないで下さい。残留熱により、火傷のおそれがあります。
- 作業は、上位遮断器等を切にし、主回路、制御回路共充電していないことを確認して行って下さい。感電のおそれがあります。
- 保守点検・付属品交換は、投入スプリングをディスチャージし、遮断器を開路して行って下さい。不意の開路、開路動作により、手指や工具が操作機構部に挟まれてけがをするおそれがあります。
- 端子ねじは、定期的に標準締付トルクで増し締めして下さい。緩みは、火災の原因となります。
- コンタクト部のコンタクトチップを研磨するときは、ケズリ粉が遮断器本体の操作機構部に入らないようにし、研磨後はきれいに拭き取って下さい。遮断器の故障、火災の原因となります。
- 耐電圧、絶縁抵抗試験は、規定値と異なる条件で行わないで下さい。故障のおそれがあります。
- 取外した消弧室は、必ず取付けて下さい。取付けに不備があると火傷・火災の原因となります。
- 保守点検で、遮断器本体の消弧室、フロントカバー、サイドカバーを取外した状態でチャージ・開閉操作を行う時は、操作に必要な箇所（チャージングハンドル、ON・OFFボタン、可動コア等）以外には触れないで下さい。手指や工具が挟まれてけがをするおそれがあります。
- 各付属品の交換の際、付属品の制御電線をドライバーなどで傷つけたり、付属品と本体の間に制御電線を挟んで取付けしないで下さい。故障の原因となります。

安全の為、保守点検の前に必ず6-2-1.の準備を行って下さい（点検要領中に特に指定のある場合を除く）。一般点検の要領を表21、詳細点検の要領を表22に示します。

#### ●弊社への連絡事項

AR形気中遮断器に異常が発生し、その処置を弊社に依頼される場合、適切な計測器類、補修部品、工具類の準備を行うために、少なくとも表20の項目についてご連絡下さい。本取扱説明書末尾にご連絡先を記載しています。

表20 弊社への連絡事項

項目	記入欄	確認箇所
形式	AR _____ 極 固定形	定格銘板
製造番号	_____	納入仕様書
主回路定格電圧	<input type="checkbox"/> AC <input type="checkbox"/> DC _____ V	OCR <sub>n</sub> 部
定格電流	_____ A	仕様銘板 「CLOSING」欄
操作方式	<input type="checkbox"/> 手動チャージ <input type="checkbox"/> 電動チャージ 定格操作電圧： <input type="checkbox"/> AC <input type="checkbox"/> DC _____ V	仕様銘板 「OCR」欄
過電流引外し装置	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 形式：AGR-12BL-_____	仕様銘板 「TRIPPING」欄
電氣的引外し装置	<input type="checkbox"/> 瞬時定格電圧引外し装置（SHT） 定格電圧： <input type="checkbox"/> AC <input type="checkbox"/> DC _____ V <input type="checkbox"/> 不足電圧引外し装置（UVT） 定格電圧： <input type="checkbox"/> AC <input type="checkbox"/> DC _____ V	仕様銘板 「OTHERS」欄
特殊仕様	SR：_____ SS：_____ SO：_____	-
使用条件 （電圧、電流、環境）		-
異常発生時の状況、 発生する異常現象・ 症状 （できるだけ詳しく）		-
実施した点検 ・処置の内容		6-1.
現状及び予定	停電可能日：_____年_____月_____日 停電可能時間：_____：_____～_____：_____ 実施希望場所：_____	-

- 仕様銘板の内容は、なるべく全てご連絡下さい。
- 納入仕様書、検査成績書等があれば、併せてご提示下さい。
- 点検整備計画が早期に決定されている場合は、事前に日程をご連絡下さい。直前の場合、弊社サービス要員の日程調整がつかず、即時に対応できない場合があります。

表 2 1 一般点検要領

点検箇所	番号	点検項目	点検・処置要領		
全般 ※1	1	導体の変色	接続導体、主回路端子、遮断器導電部に異常温度上昇による変色がない事を確認します。異常温度上昇による変色がある場合、弊社へご連絡下さい。		
	2	部品の脱落	ねじ、ナット、座金、スプリング、止め輪等の部品の脱落がない事を確認します。発見した時は、弊社へご連絡下さい。		
	3	部品の損傷	部品の変形、亀裂、欠け、損傷等のない事を確認します。発見した時は、弊社へご連絡下さい。		
	4	塵埃の堆積	各部に塵埃の堆積がない事を確認します。塵埃が堆積している場合、クリーナで吸掃し、乾燥したきれいな布で拭取ります。		
主回路・ 制御回路 端子 2-3.参照	5	接続状態	主回路端子ねじ、アース端子ねじ、補助スイッチ端子ねじ及び制御回路端子ねじに緩みがない事を確認します。緩みがある場合、規定の締付けトルクで増締めします。		
消弧室 6-2-2.参照	6	塵埃の堆積・ 損傷	消弧室を取外して、異物や塵埃の堆積がなく、変形、亀裂、欠け等の損傷のない事を確認します。異物や塵埃のある場合はクリーナで吸掃し、乾燥したきれいな布で拭取ります。金属溶片の付着はサンドペーパーややすりで取除いて清掃します(※2)。溶融物が著しく付着し除去できない場合、または損傷のある場合は消弧室を取替えます。		
コンタクト 6-2-2.参照	7	表面状態	消弧室を取外して、コンタクト周囲、コンタクト及びコンタクトチップに塵埃の付着、変色がない事、表面が荒れていない事、変形、亀裂、欠け等の損傷のない事を確認します。塵埃の付着、変色がある場合、クリーナで吸掃し、乾燥したきれいな布で拭取って清掃します。コンタクトチップの変色が極端にひどい場合や表面が荒れている場合、サンドペーパー(#200)で研磨します(※2)。損傷のある場合や、コンタクトチップの厚みが研磨後0.7mm以下になった場合は、弊社へお問合せ下さい。 ●コンタクトチップの黒化は酸化・硫化によるもので、閉路時に除去されます。極端な場合を除き差支えありません。異常温度上昇による変色がある場合、詳細点検を実施して下さい。		
主回路、 消弧室 6-2-2.参照	8	絶縁抵抗	DC500V絶縁抵抗計で、主回路極間、主回路一括と大地間、隣接する消弧グリッド両端間の絶縁抵抗値が5MΩを超える事を確認します。5MΩ以下の場合、コンタクト周囲・導電部周囲の絶縁物の炭化部分、消弧室・消弧グリッドに付着した溶片をサンドペーパーややすりで取り除いて清掃します(※2)。処置を行っても絶縁が回復しない場合は、弊社へご連絡下さい。		
操作機構 6-2-5.参照	9	内部状態	OCRを外した状態で、各部に部品の脱落がない事、変形、亀裂、欠け等の損傷のない事、異物や塵埃の堆積がない事、各種スプリングの外れ、折損、発錆のない事を確認します。異物や塵埃のある場合はクリーナで吸掃し、乾燥したきれいな布で拭取ります。部品の脱落、損傷、スプリングの異常を認めた時は、弊社へご連絡下さい。		
制御回路 6-2-3.参照	10	配線状態	サイドカバー、フロントカバーを取外して、制御電線接続部が正しく接続されている事、断線、損傷がない事を確認します。接続が不完全な場合、完全に挿入します。断線、損傷がある場合は、弊社へご連絡下さい。		
補助 スイッチ 6-2-7.参照	11	動作	動作レバー状態	_11- 12 間導通	_11- 14 間導通
			自然位置	100mΩ以下	無
			最大持上げ位置	無	100mΩ以下
12	補助接点	補助スイッチを取外し、補助接点表面が荒れていない事を確認します。著しく消耗している場合、交換します。			
13	ねじ緩み	補助スイッチ取付ねじに緩みがない事を確認します。緩みがある場合、増締めします。			
操作関連部 4-1. 4-2.参照	14	UVT 動作	遮断器を元通りに組立て、手動チャージ・閉路操作を行い、遮断器が閉路しない事を確認します。閉路する場合、詳細点検を実施して下さい。		
	15	操作機構、 LRC・SHT・ UVT 動作	遮断器を元通りに組立て、操作・SHT・UVT 電源を与えて、遮断器のチャージ操作、手動・電氣的開閉操作をそれぞれ数回行い、遮断器前面のチャージインジケータ、開閉インジケータ、開閉回数計の表示が正常に連動する事、異常音のない事を確認します。異常を認めた時は、詳細点検を実施して下さい。		

※1：“全般”の項目は、表2.1の点検の際、常にご留意下さい。

※2：研磨時の金属粉が遮断器内部に入らない様にして下さい。また、研磨後は金属粉をきれいに拭取して下さい。

表 2 2 詳細点検要領

点検箇所	番号	点検項目	点検・処置要領
投入コイル (LRC) 6-2-3.参照	1	コイル抵抗	手動コネクタ (緑色) の接続を外し、テスタで端子間のコイル抵抗値を測定し (※3)、表 9 の範囲内である事を確認します。範囲外の場合、交換します。
	2	突き棒長 動作距離	LRC を取外し、自然状態の突き棒長が 24.2-24.8mm である事、可動コア押込み時の突き棒突出量が 6.3-7mm である事をノギスで確認します。範囲外の場合、交換します。
	3	手動 コネクタ	手動コネクタ (緑色) が遮断器の手動コネクタ (緑色) と正しく接続されている事を確認します。接続が不完全な場合、完全に挿入します。
	4	ねじ緩み	LRC 取付ねじに緩みのない事を確認します。緩みがある場合、増締めします。
	5	機械的動作	チャージ時に可動コアを押すと遮断器が閉路する事、ゆっくり戻すと可動コアが軽く復帰する事を確認します。閉路しない場合、復帰しない場合は交換します。交換しても正しく動作しない場合、弊社へご連絡下さい。点検後は遮断器を開路し、ディスチャージして下さい。
瞬時定格電 圧引外し 装置 (SHT) 6-2-4.参照	6	コイル抵抗	手動コネクタ (黒色) の接続を外し、テスタで端子間のコイル抵抗値を測定し (※3)、表 1 0 の範囲内である事を確認します。範囲外の場合、交換します。
	7	突き棒長 動作距離	SHT を取外し、自然状態の突き棒長が 24.7-25.3mm である事、可動コア押込み時の突き棒突出量が 6.7-7.3mm である事をノギスで確認します。範囲外の場合、交換します。
	8	手動 コネクタ	手動コネクタ (黒色) が遮断器の手動コネクタ (黒色) と正しく接続されている事を確認します。接続が不完全な場合、完全に挿入します。
	9	ねじ緩み	SHT 取付ねじに緩みのない事を確認します。緩みがある場合、増締めします。
不足電圧引 外し装置 (UVT) 6-2-1.参照	10	機械的動作	閉路時に可動コアを押すと遮断器が開路する事、ゆっくり戻すと可動コアが軽く復帰する事を確認します。開路しない場合、復帰しない場合は交換します。交換しても正しく動作しない場合、弊社へご連絡下さい。点検後は遮断器をディスチャージして下さい。
	11	コイル抵抗	手動コネクタ (赤色) の接続を外し、テスタで端子間のコイル抵抗値を測定し (※3)、330-420Ω の範囲内である事を確認します。範囲外の場合、交換します。
	12	動作	UVT を取外し、突き棒を引出してゆっくり戻すと詰まりなく軽く復帰する事を確認します。詰まりのある場合、交換します。
	13	突き棒長 動作距離	UVT を取外し、自然状態の突き棒長が 32.7-33.3mm である事、突き棒引出し時の突出量が 6.7-7.3mm である事をノギスで確認します。範囲外の場合、交換します。
	14	手動 コネクタ	手動コネクタ (赤色) が遮断器の手動コネクタ (赤色) と正しく接続されている事を確認します。接続が不完全な場合、完全に挿入します。
引外し コイル (MHT) 6-2-6.参照	15	ねじ緩み	UVT 取付ねじに緩みのない事を確認します。緩みがある場合、増締めします。
	16	コイル抵抗	手動コネクタ (赤色) の接続を外し、テスタで端子間のコイル抵抗値を測定し (※3)、1.8-2.2Ω の範囲内である事を確認します。範囲外の場合、交換します。
	17	動作	MHT を取外し、可動コアを引出してゆっくり押込むと詰まりなく押込む事ができ、可動コアが吸着する事を確認します。詰まりのある場合、吸着できない場合は交換します。
	18	可動コア長 動作距離	MHT を取外し、押込み吸着時の可動コア長が 2.2-2.8mm である事、可動コア引出し時の突出量が 6.7-7.3mm である事をノギスで確認します。範囲外の場合、交換します。
	19	手動 コネクタ	手動コネクタ (赤色) が遮断器の手動コネクタ (赤色) と正しく接続されている事を確認します。接続が不完全な場合、完全に挿入します。
チャージ ングモータ, LRC	20	ねじ緩み	MHT 取付ねじに緩みのない事を確認します。緩みがある場合、増締めします。
	21	電氣的動作	遮断器を元通りに組立て、操作電源を与えて、操作可能電圧の最大値と最小値で電氣的チャージ・閉路操作を行い、遮断器が動作する事を確認します (表 9 参照)。動作しない場合は、弊社へご連絡下さい。
SHT	22	電氣的動作	遮断器を元通りに組立て、閉路時に SHT 電源を与えて、操作可能電圧の最大値と最小値で SHT による電氣的開路操作を行い、遮断器が開路する事を確認します (表 1 0 参照)。開路しない場合は、弊社へご連絡下さい。
UVT	23	電氣的動作	遮断器を元通りに組立て、チャージ時に UVT に吸引電圧を与えた時遮断器が閉路する事、閉路時に UVT 電源電圧を降下させて、遮断器が開路した時の電圧が開離電圧範囲内にある事を確認します (表 1 1 参照)。遮断器が正しく動作しない場合は、弊社へご連絡下さい。
OCR, MHT	24	動作	遮断器を元通りに組立て、ANS 2 S 形 OCR チェック用変換器による OCR の試験を実施し、遮断器が正しく動作する事を確認します。遮断器が正しく動作しない場合は、弊社へご連絡下さい。

●表 2 1 の“全般”の項目は、表 2 2 の点検の際にも常にご留意下さい。  
 ※3：テスタのリード棒をコネクタのピン端子に接触させる際、ピン端子が変形、損傷しないよう注意して接触させて下さい。



## 6-2. 付属品交換要領

### ⚠注意

- 保守点検・付属品交換は、専門知識を有する人が行って下さい。
- 通電停止（遮断器開路）直後は遮断器導電部、特にコンタクトや導電部に近接した構造物に触れないで下さい。残留熱により、火傷のおそれがあります。
- 作業は、上位遮断器等を切にし、主回路、制御回路共充電していないことを確認して行って下さい。感電のおそれがあります。
- 保守点検・付属品交換は、投入スプリングをディスチャージし、遮断器を開路して行って下さい。不意の開路、開路動作により、手指や工具が操作機構部に挟まれてけがをすることがあります。
- 取外した消弧室は、必ず取付けて下さい。取付けに不備があると火傷・火災の原因となります。
- 各付属品の交換の際、付属品の制御電線をドライバーなどで傷つけたり、付属品と本体の間に制御電線を挟んで取付けしないで下さい。故障の原因となります。

### 6-2-1. 準備（UVT交換含む）

安全の為、付属品交換の前には必ず以下の準備を行って下さい。

- 1) 主回路、制御回路の電源（上位遮断器等）を切ります。
- 2) 安全の為、投入スプリングをディスチャージし、遮断器を開路します。不足電圧引外し装置（UVT）の有無によって要領が異なります。以下を参照下さい。

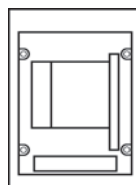
#### ●不足電圧引外し装置（UVT）なしの場合

遮断器の手動閉路・開路操作を行います。4-1-2.、4-1-3.を参照下さい。

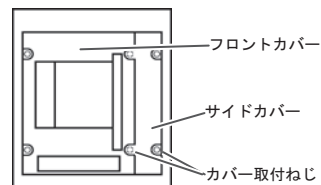
#### ●不足電圧引外し装置（UVT）付の場合

- (1) 図23に示す様に、カバー取付ねじを5～6回転緩め、フリーにします。サイドカバー付の場合は、サイドカバーを取外してフロントカバーのカバー取付ねじを緩めます。（カバー取付ねじは抜止め付です。フロントカバー、サイドカバーから取外せません。）
- (2) 図10に示す様に、チャージングハンドルを手前に倒しながら、フロントカバーを取外します。

カバー取付ねじ位置

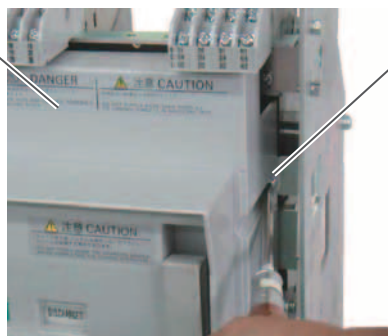


3極



4極

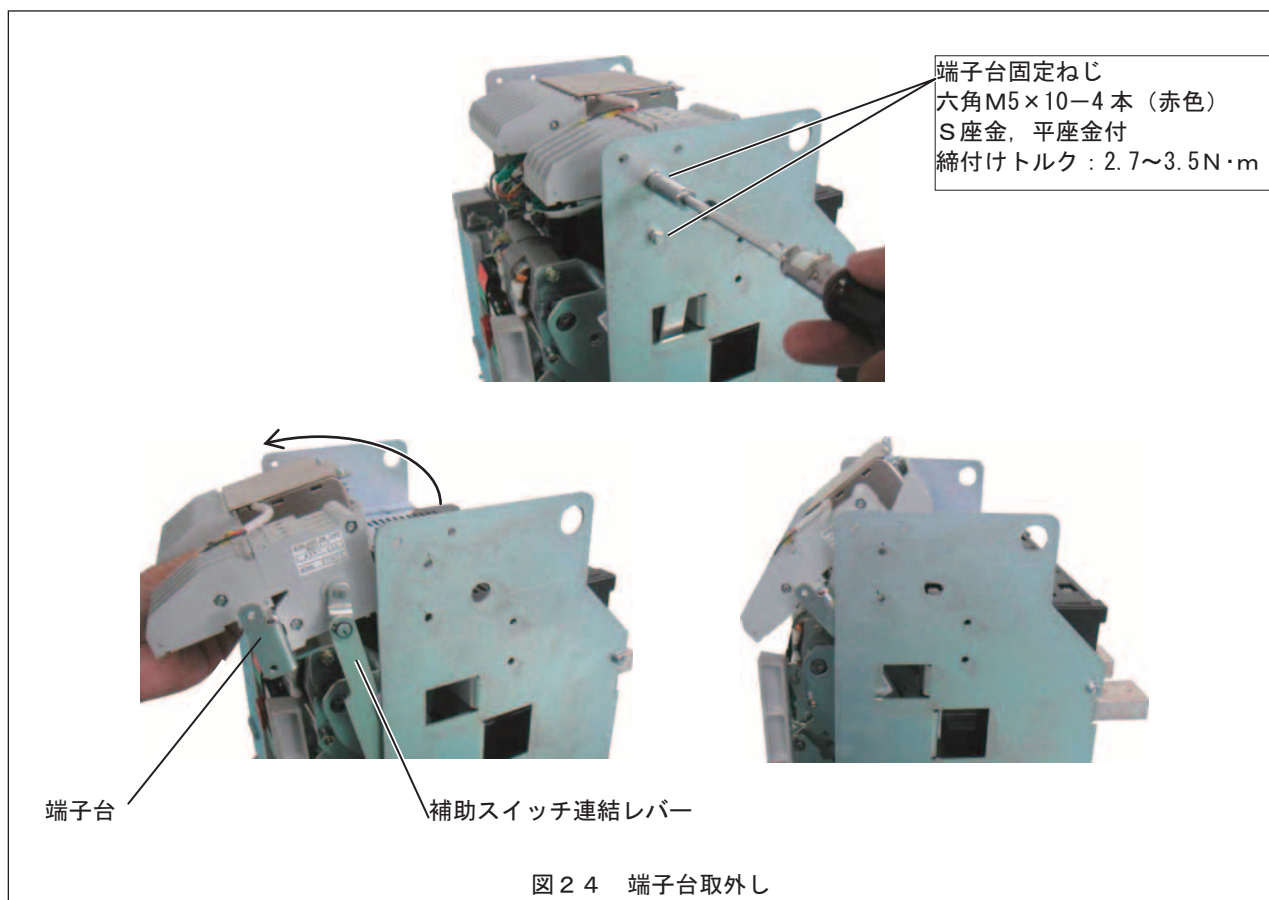
フロントカバー



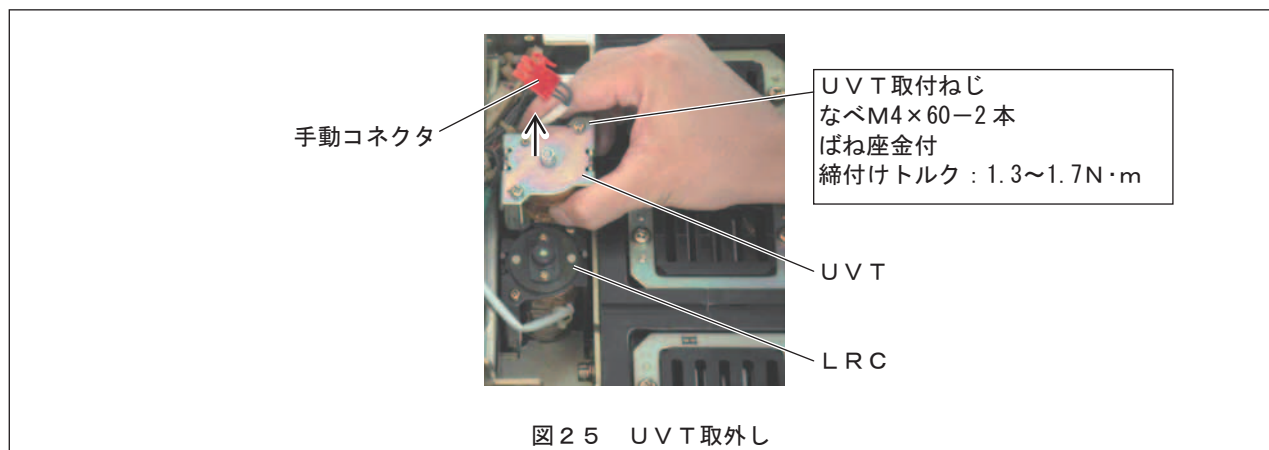
カバー取付ねじ  
なべM5×20-4～6本  
S座金, 平座金, 抜止め付  
締付けトルク: 2.7～3.5N・m

図23 カバー取付ねじ緩め

(3) 図24に示す様に、左右の端子台固定ねじを取外し、端子台を移動させます。  
補助スイッチ連結レバーを曲げないように作業を行って下さい。



(4) 図25に示す様に、UVT取付ねじを8~10回転緩め、手動コネクタ(赤色)を外し、UVTを取外します。



(5) 一連の点検・交換終了後には、逆手順で各部品を元通りに取付けて下さい。但し、UVT取付け時、UVTに貼付された製品銘板が正面から見える向きで取付けて下さい。

図26に示す様に、補助スイッチ連結レバーピンが図26に示す位置にあることを確認して下さい。

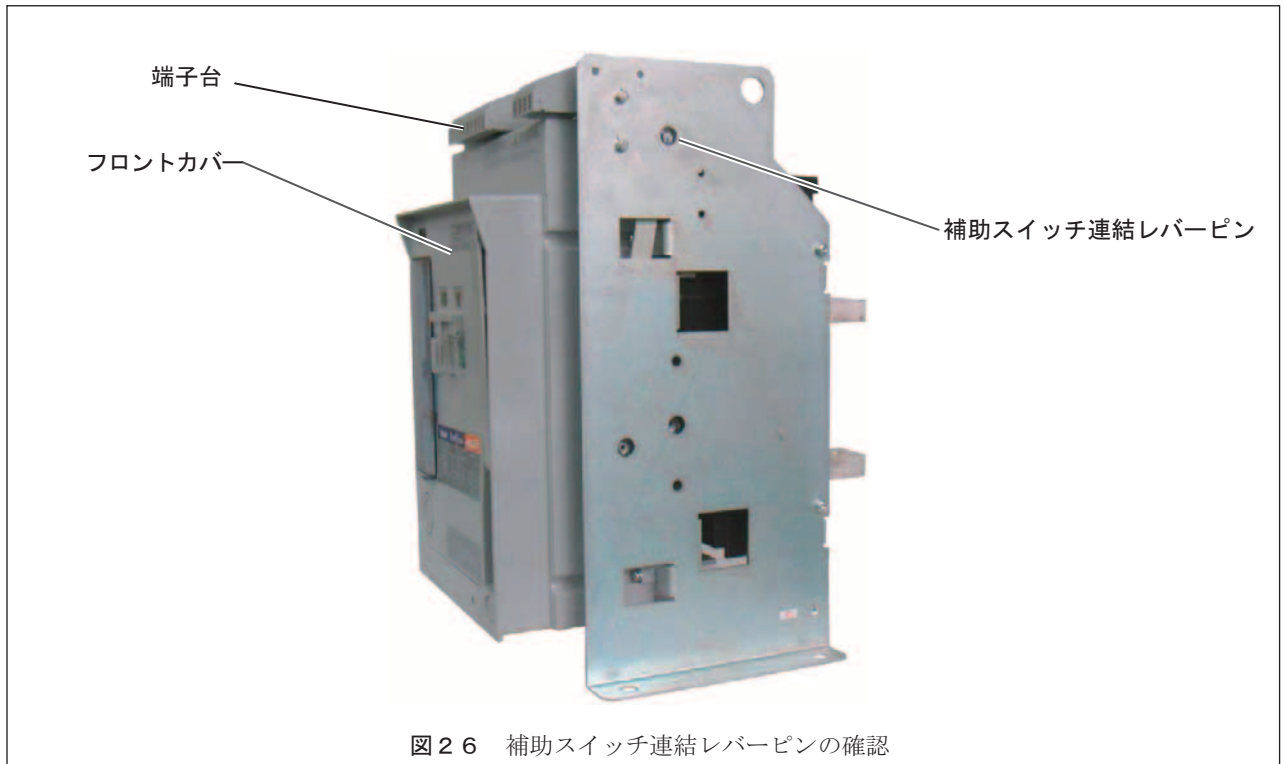


図26 補助スイッチ連結レバーピンの確認

(6) 遮断器の手動閉路・開路操作を行います。4-1-2. , 4-1-3. を参照下さい。

●図27にUVTの概観を示します。

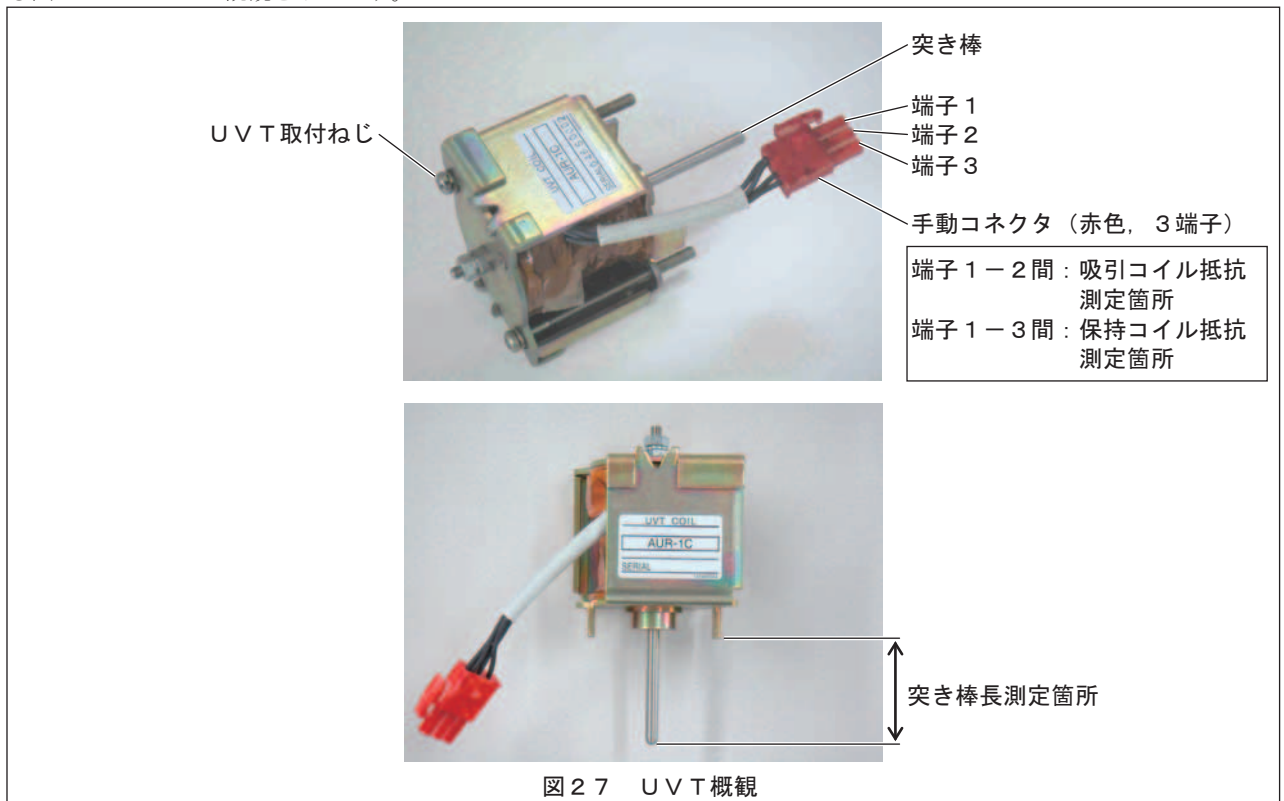
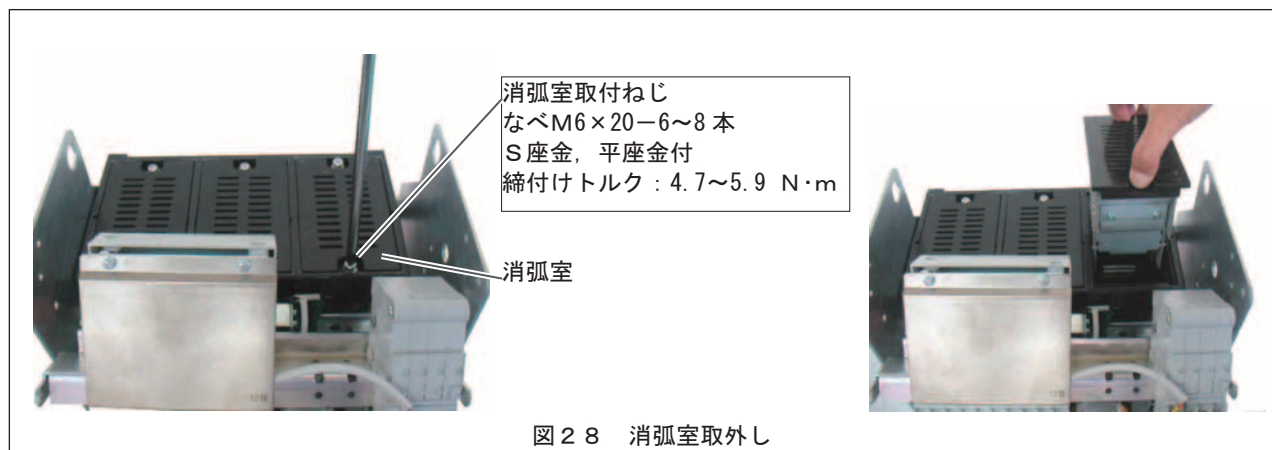


図27 UVT概観

## 6-2-2. 消弧室

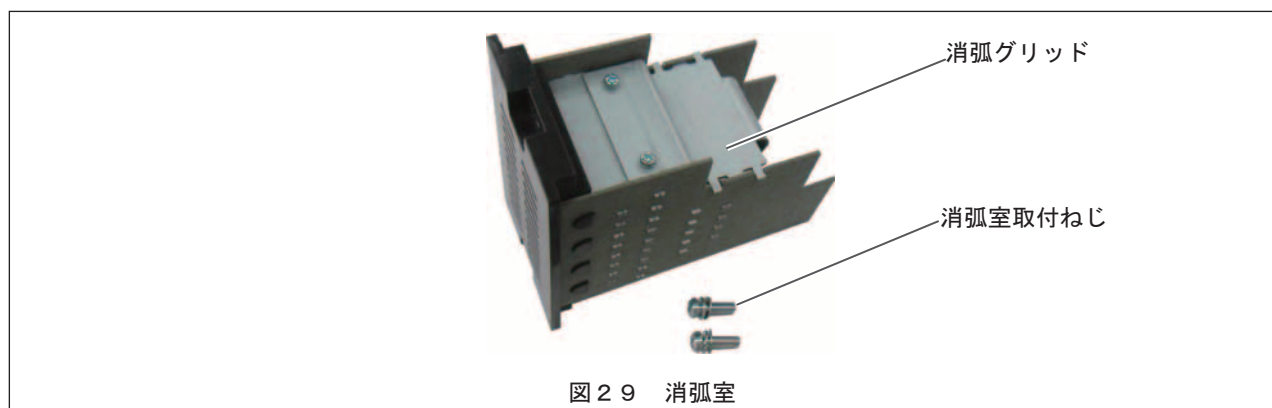
消弧室の交換要領を以下に示します。

- 1) 準備を行います。6-2-1. を参照下さい。
- 2) 不足電圧引外し装置なしの場合は、図23に示す様に、カバー取付ねじを5~6回転緩め、フリーにします。サイドカバー付の場合は、サイドカバーを取外してフロントカバーのカバー取付ねじを緩めます。（カバー取付ねじは抜止め付です。フロントカバー、サイドカバーから取外せません。）
- 3) チャージングハンドルを手前に倒しながら、フロントカバーを取外します。
- 4) 図24に示す様に、端子台固定ねじを取外し端子台を移動させます。
- 5) 図28に示す様に、消弧室取付ねじを取外し、消弧室を抜取ります。

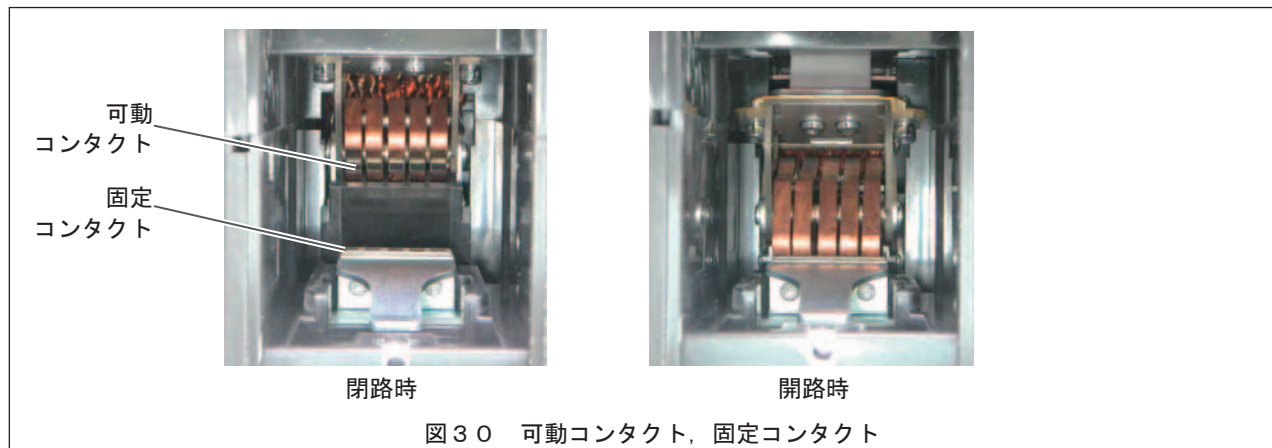


- 6) 一連の点検・交換終了後は、逆手順で各部品を元通りに取付けて下さい。

●消弧室を図29に示します。



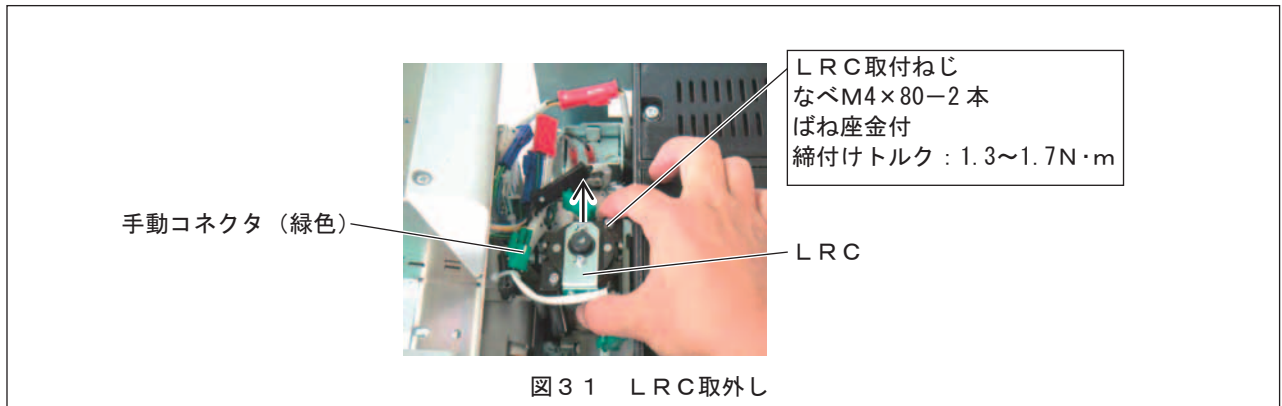
●消弧室取外し時に目視できる、遮断器内部の可動コンタクト、固定コンタクトを図30に示します。



### 6-2-3. 投入コイル (LRC)

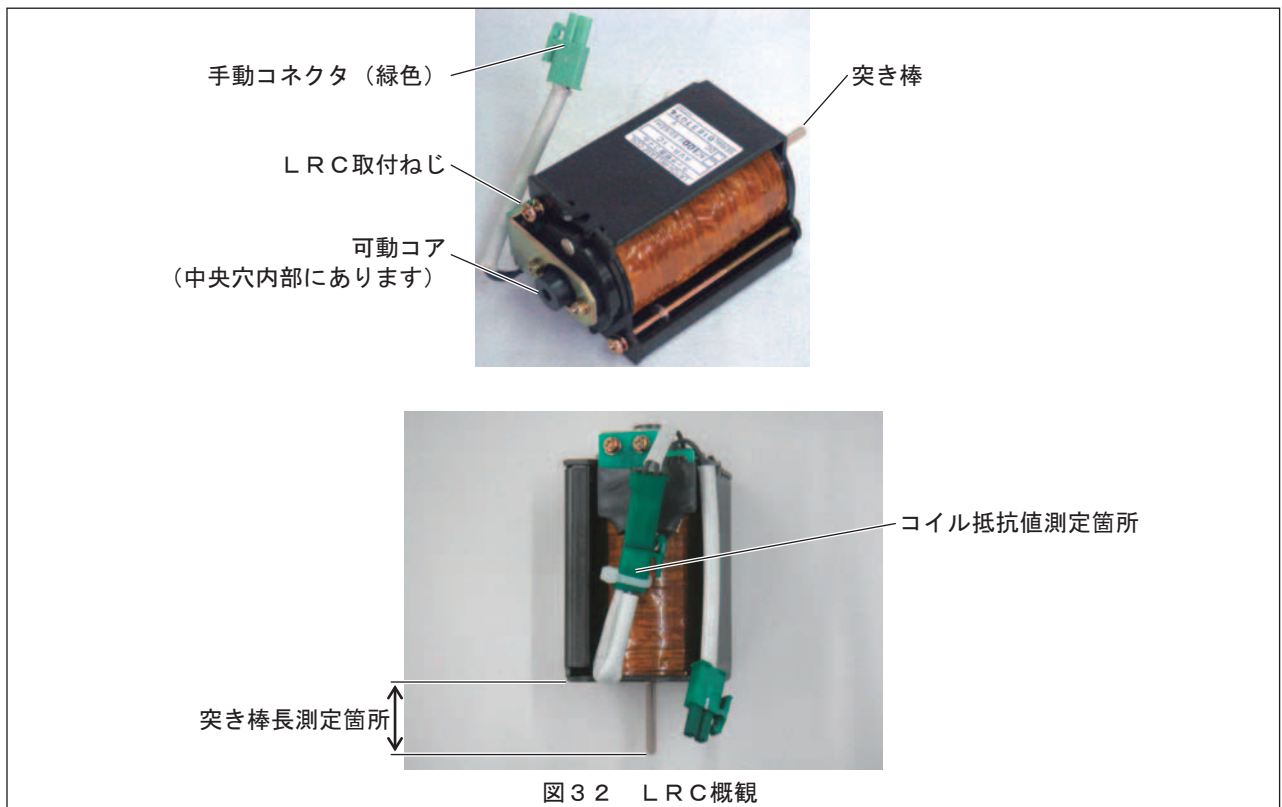
投入コイル (LRC) の交換要領を以下に示します。

- 1) 準備を行います。6-2-1. を参照下さい。
- 2) 不足電圧引外し装置なしの場合は、図23に示す様に、カバー取付ねじを5~6回転緩め、フリーにします。サイドカバー付の場合は、サイドカバーを取外してフロントカバーのカバー取付ねじを緩めます。(カバー取付ねじは抜止め付です。フロントカバー、サイドカバーから取外せません。)
- 3) チャージングハンドルを手前に倒しながら、フロントカバーを取外します。
- 4) 図24に示す様に、端子台固定ねじを取外し端子台を移動させます。
- 5) 図31に示す様に、LRC取付ねじを8~10回転緩め、手動コネクタ (緑色) を外し、LRCを取外します。



- 6) 一連の点検・交換終了後には、逆手順で各部品を元通りに取付けます。但し、LRC取付け時、LRCに貼付された製品銘板が正面から見える向きで取付けて下さい。

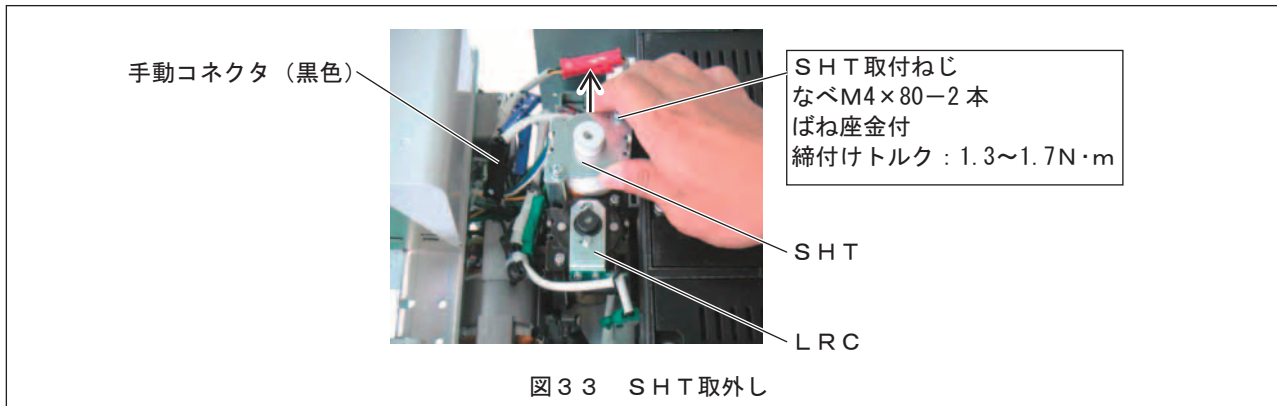
●図32にLRCの概観を示します。



## 6-2-4. 瞬時定格電圧引外し装置 (SHT)

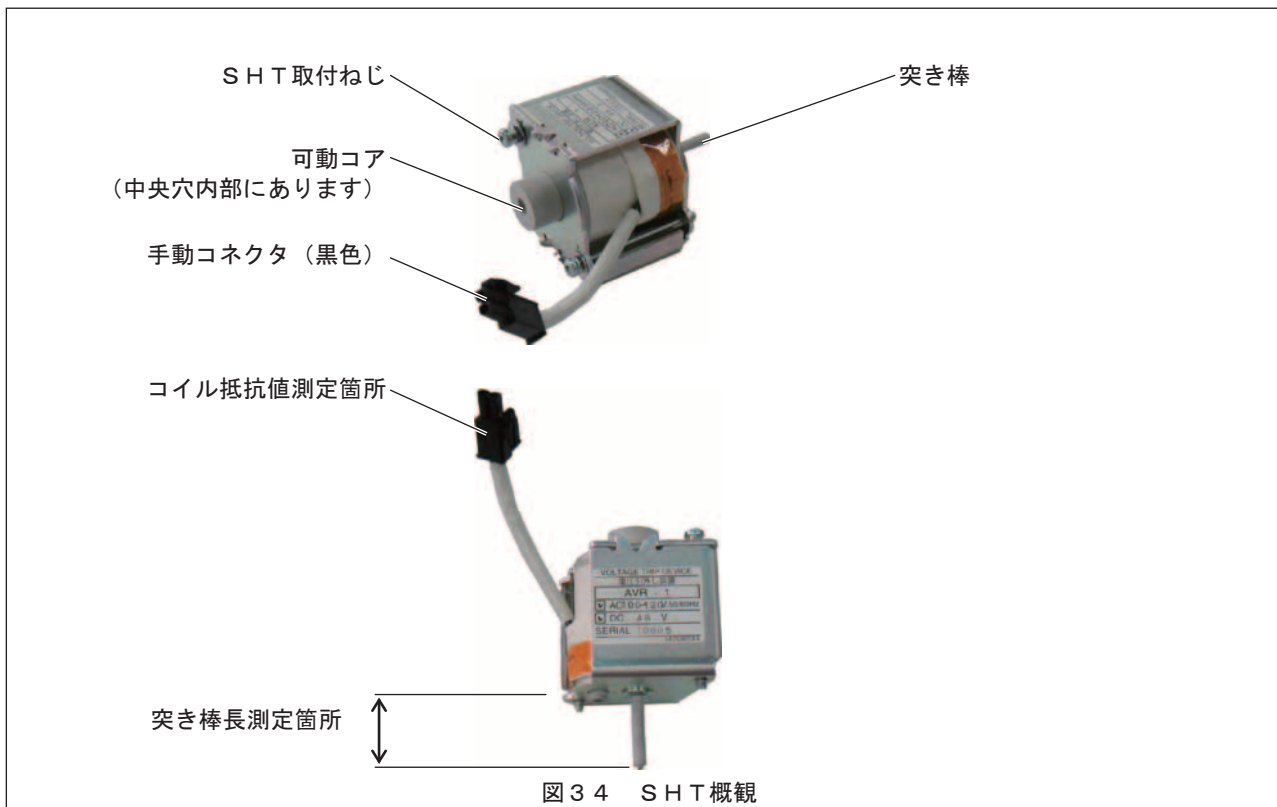
瞬時定格電圧引外し装置 (SHT) の交換要領を以下に示します。

- 1) 準備を行います。6-2-1. を参照下さい。
- 2) 図23に示す様に、カバー取付ねじを5~6回転緩め、フリーにします。サイドカバー付の場合は、サイドカバーを取外してフロントカバーのカバー取付ねじを緩めます。(カバー取付ねじは抜止め付です。フロントカバー、サイドカバーから取外せません。)
- 3) チャージングハンドルを手前に倒しながら、フロントカバーを取外します。
- 4) 図24に示す様に、端子台固定ねじを取外し端子台を移動させます。
- 5) 図33に示す様に、SHT取付ねじを8~10回転緩め、手動コネクタ (黒色) を外し、SHTを取外します。



- 6) 一連の点検・交換終了後には、逆手順で各部品を元通りに取付けます。但し、SHT取付け時、SHTに貼付された製品銘板が正面から見える向きで取付けて下さい。

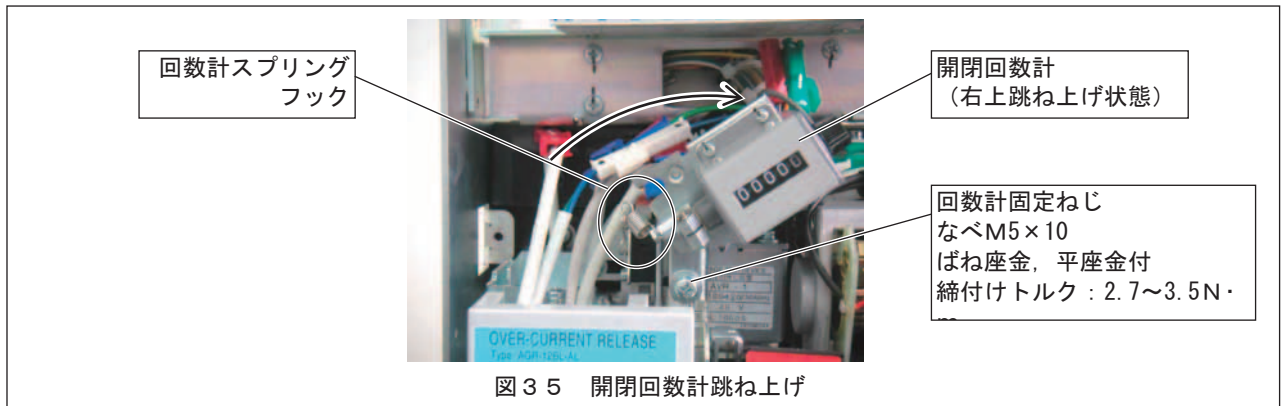
●図34にSHTの概観を示します。



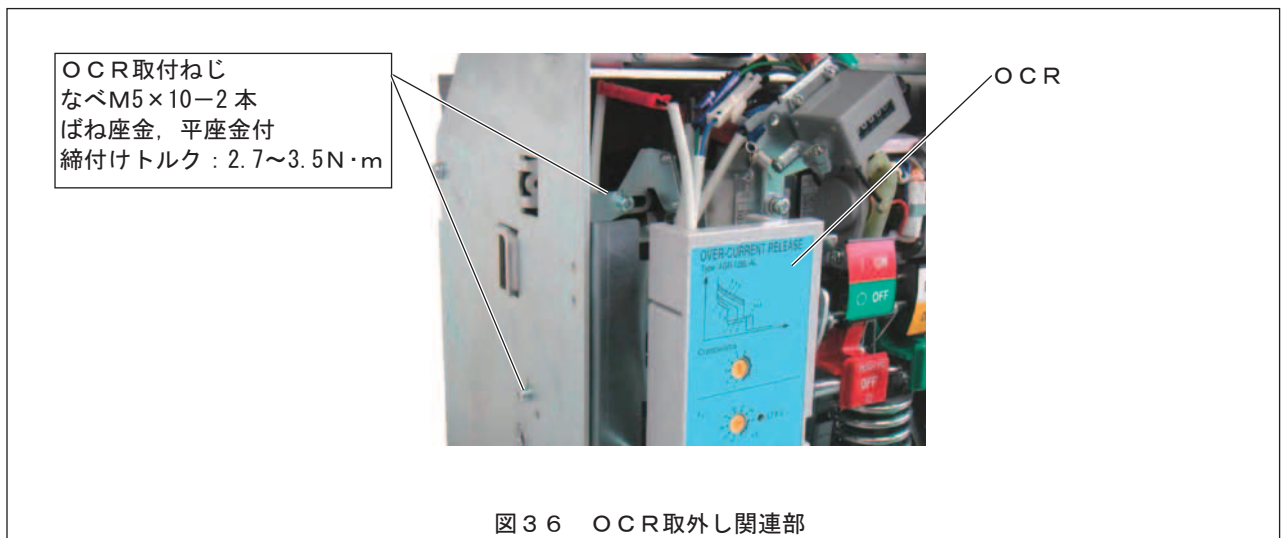
## 6-2-5. 制御リレー

制御リレーの交換要領を以下に示します。

- 1) 準備を行います。6-2-1. を参照下さい。
- 2) 不足電圧引外し装置なしの場合は、図23に示す様に、カバー取付ねじを5～6回転緩め、フリーにします。サイドカバー付の場合は、サイドカバーを取外してフロントカバーのカバー取付ねじを緩めます。（カバー取付ねじは抜止め付です。フロントカバー，サイドカバーから取外せません。）
- 3) チャージングハンドルを手前に倒しながら、フロントカバーを取外します。
- 4) 開閉回数計付の場合、図35に示す回数計スプリング下側のフックを外し、回数計固定ねじを2～3回転緩めて（取外さないで下さい），開閉回数計を右上に跳ね上げます。

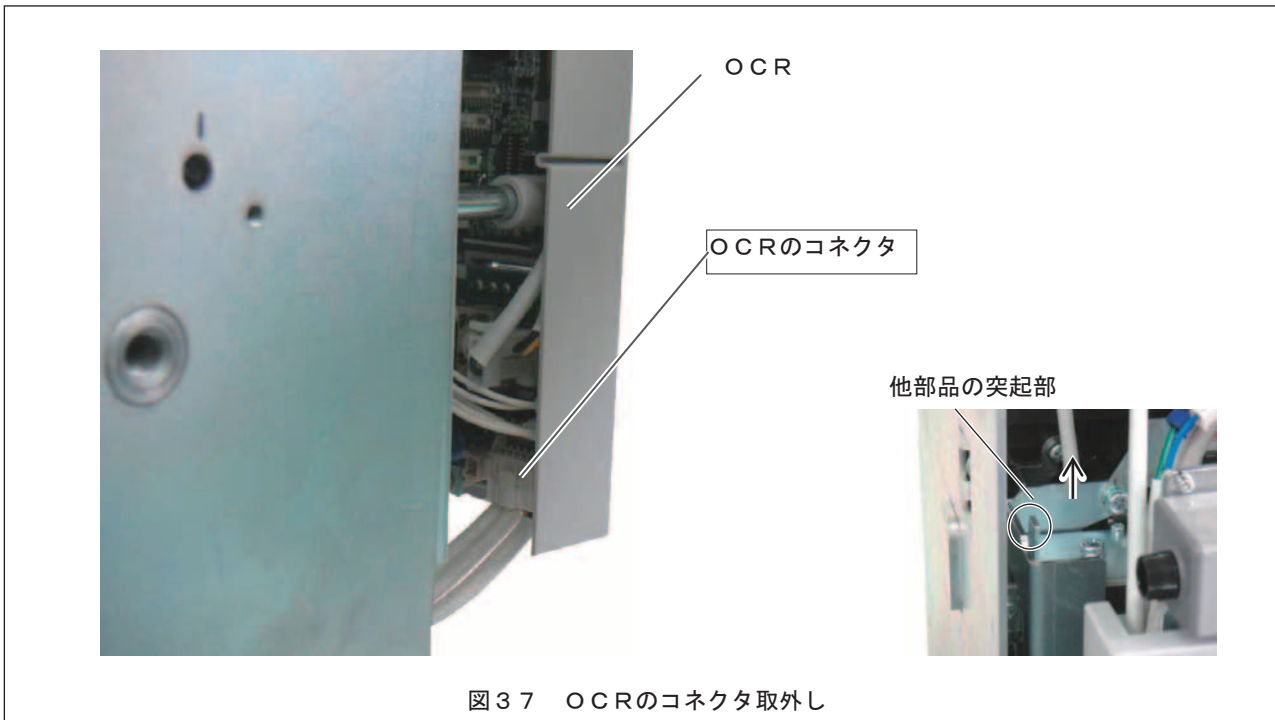


- 5) 図36に示すOCR取付ねじを取外します。

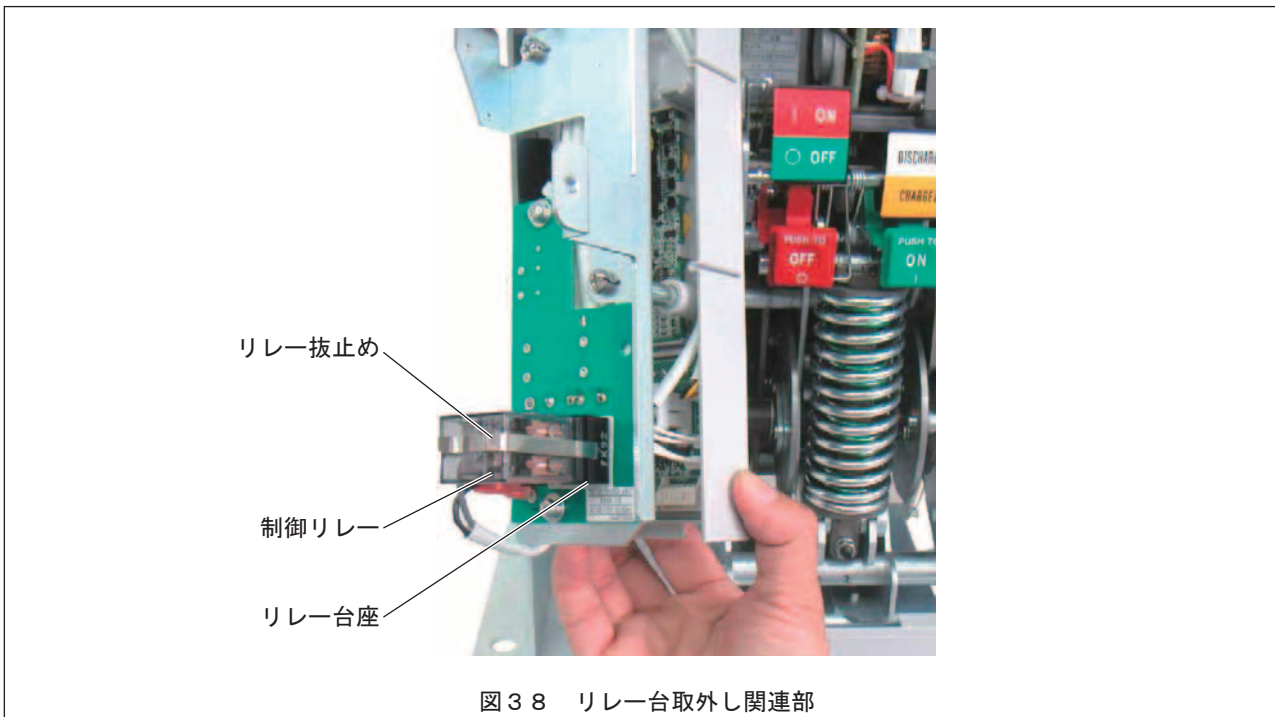


6) 図37に示す様に、OCRを一旦上に持上げて他部品の突起部をかまし、取出します。

7) OCRのコネクタを外します。



8) 図38に示すOCRの裏側にあるリレー抜止めを外し、制御リレーをリレー台座から抜取ります。



9) 一連の点検・交換終了後には、逆手順で各部品を元通りに取付けます。



## 6-2-6. 引外しコイル (MHT)

引外しコイル (MHT) の交換要領を以下に示します。

- 1) 準備を行います。6-2-1. を参照下さい。
- 2) 手動コネクタ (赤色) を取外します。
- 3) OCRを取外します。6-2-5. 2) ~8) を参照下さい。
- 4) 図39に示すMHT取付ねじを緩めて外し、MHTを取外します。

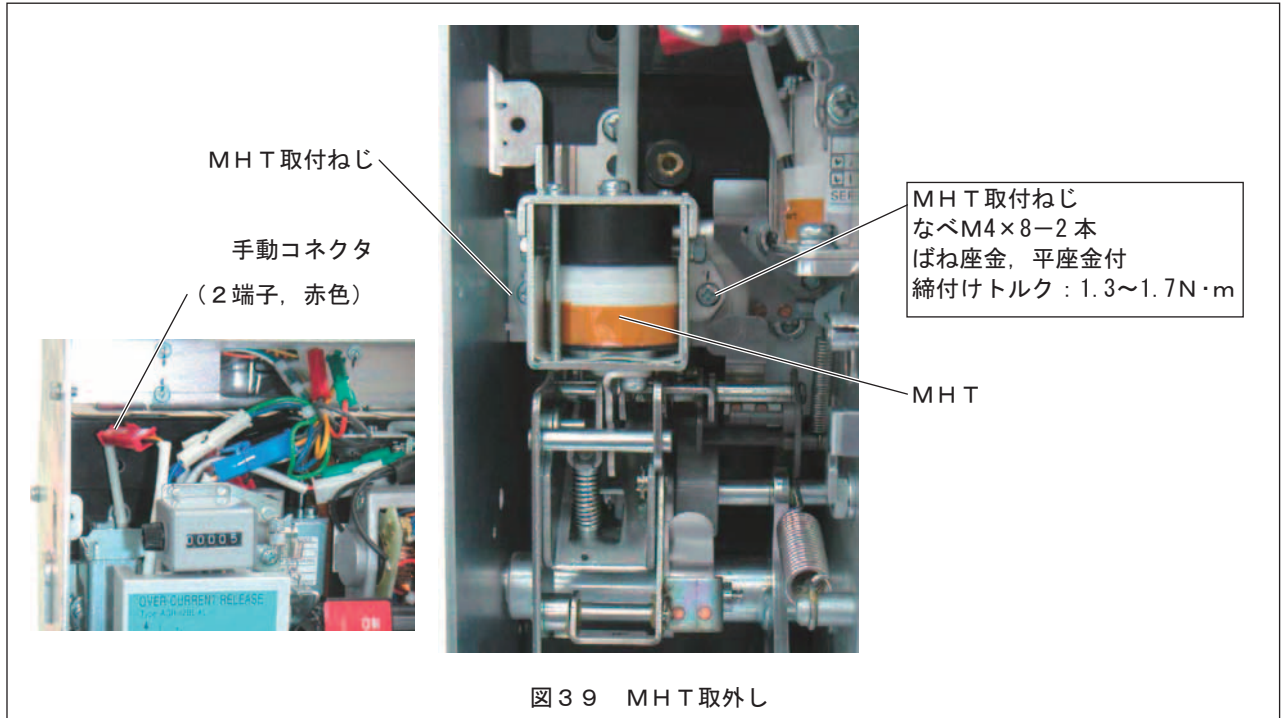


図39 MHT取外し

- 4) 一連の点検・交換終了後には、逆手順で各部品を元通りに取付けて下さい。

●図40にMHTの概観を示します。

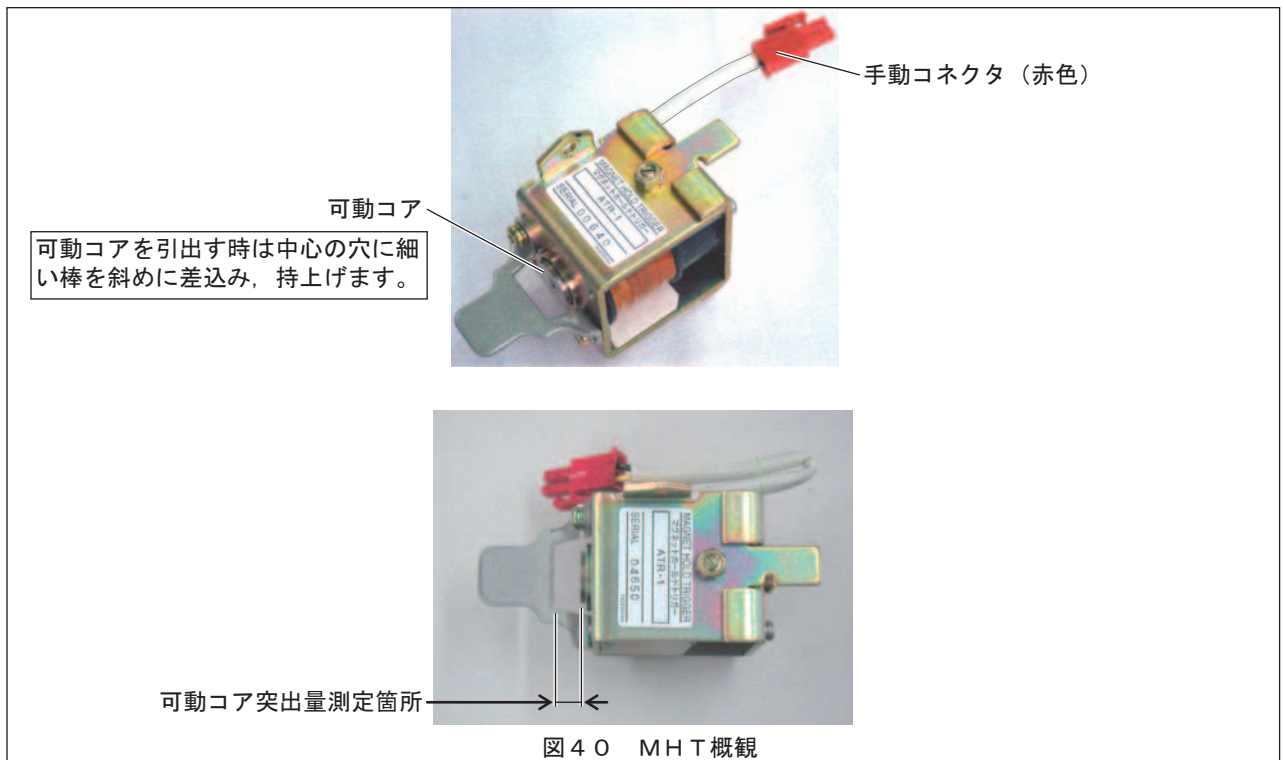
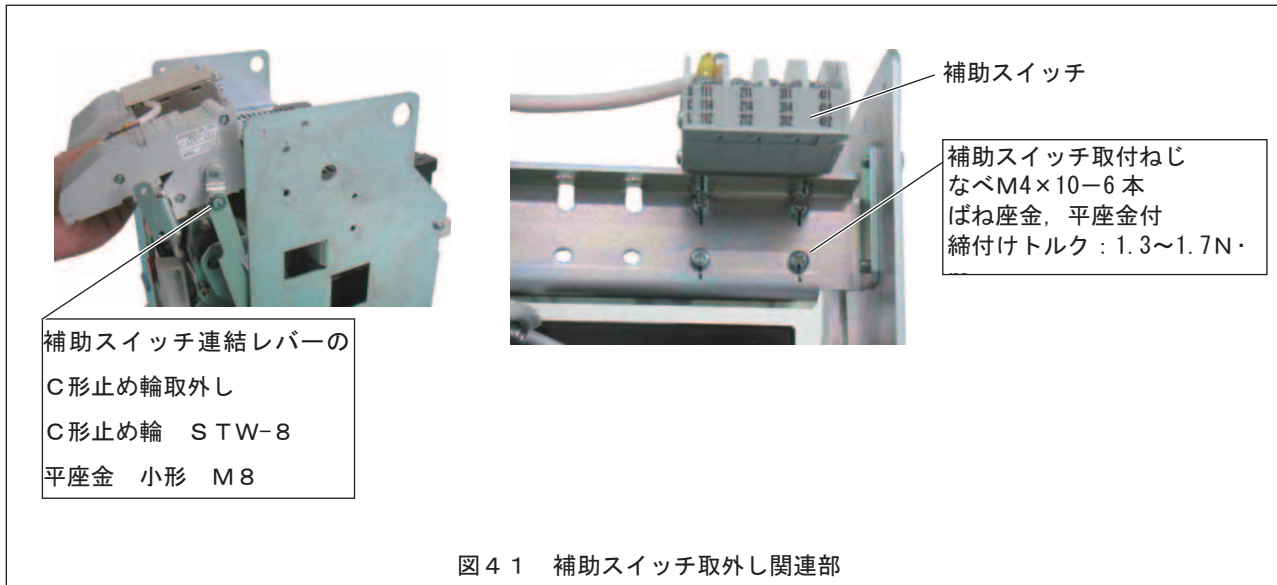


図40 MHT概観

## 6-2-7. 補助スイッチ

補助スイッチの交換要領を以下に示します。

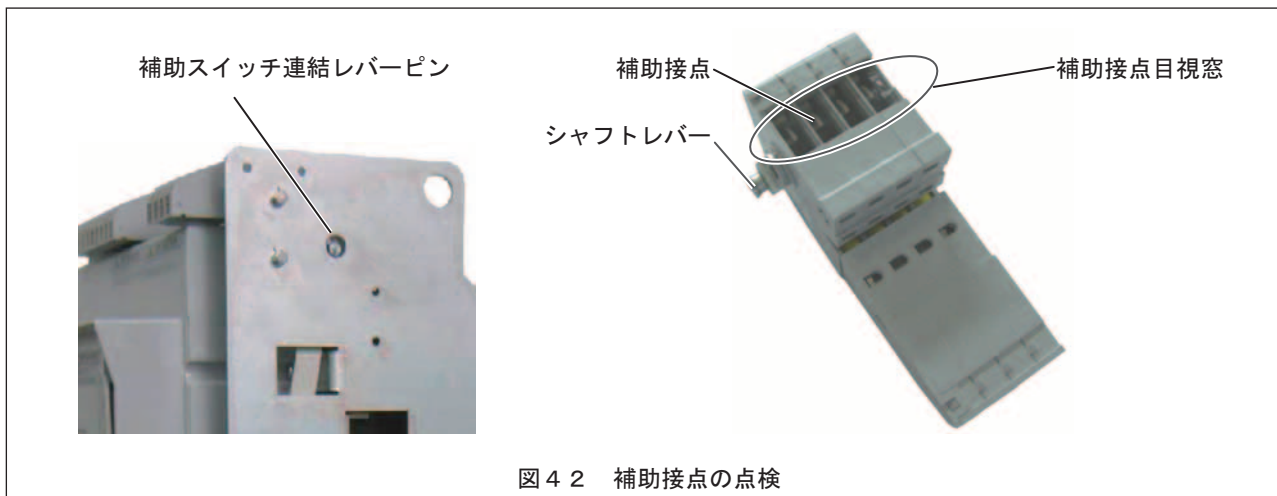
- 1) 準備を行います。6-2-1を参照下さい。
- 2) 不足電圧引外し装置なしの場合は、図23に示す様に、カバー取付ねじを5～6回転緩め、フリーにします。サイドカバー付の場合は、サイドカバーを取外してフロントカバーのカバー取付ねじを緩めます。（カバー取付ねじは抜止め付です。フロントカバー、サイドカバーから取外せません。）
- 3) チャージングハンドルを手前に倒しながら、フロントカバーを取外します。
- 4) 図41に示す補助スイッチ取付ねじを取外します。
- 5) 図24に示す様に、端子台固定ねじを取外し端子台を移動させます。
- 6) 図41に示す補助スイッチ連結レバーのC形止め輪をC形止め輪取付け工具で取外し、補助スイッチを取外します。（取外したC形止め輪は再使用しないで下さい。必ず新しいC形止め輪で元通りに取付けて下さい。）



- 7) 一連の点検・交換終了後には、逆手順で各部品を元通りに取付けて下さい。

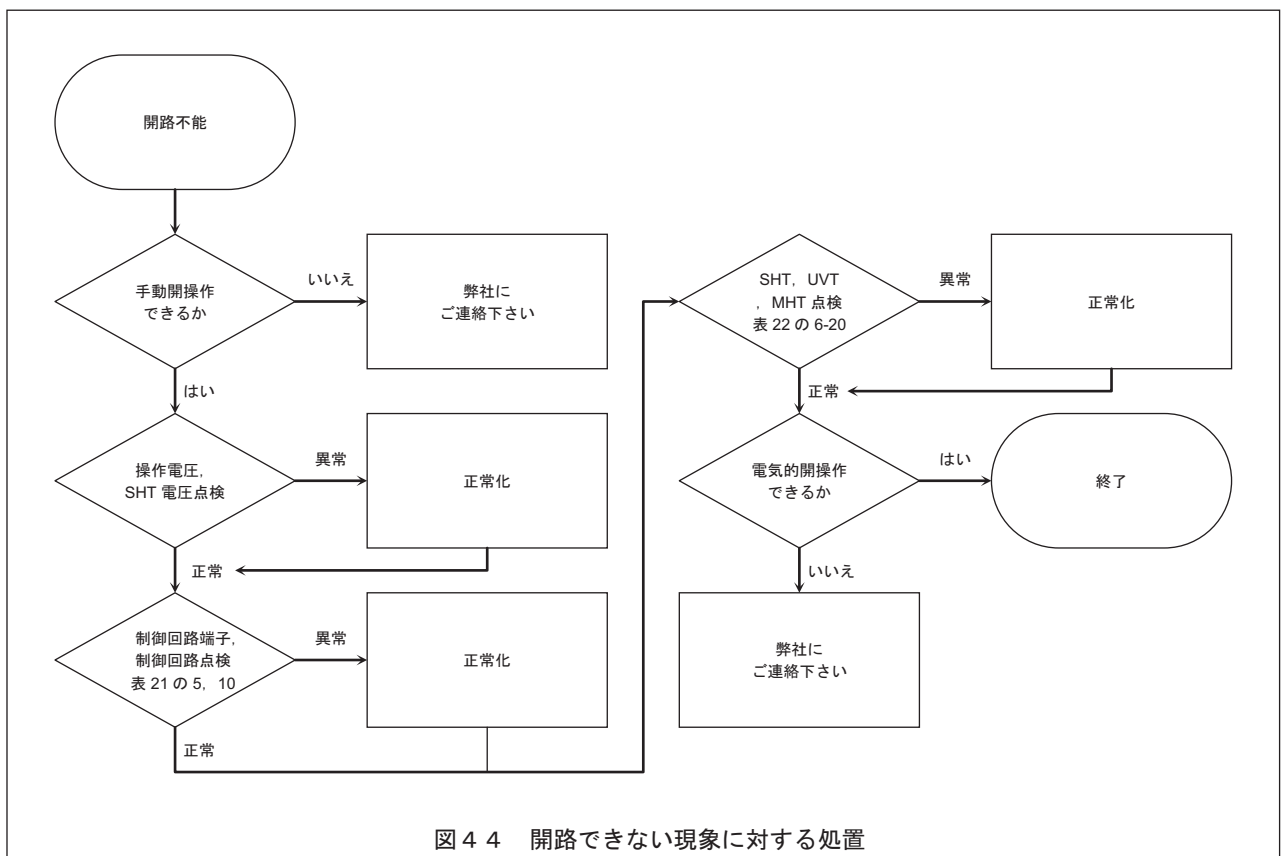
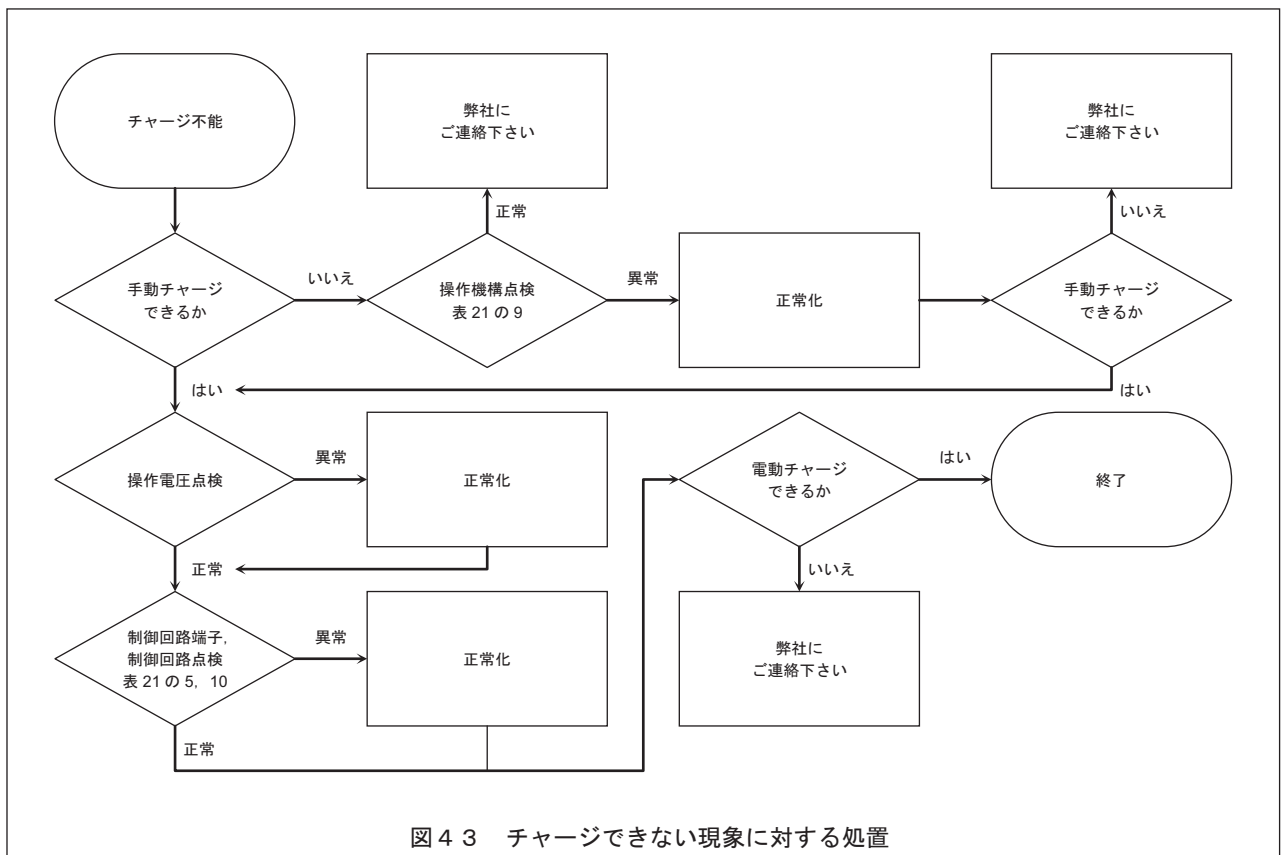
端子台を元の位置に戻す際、補助スイッチ連結レバーピンが図42に示す位置にあることを確認して下さい。

- 補助接点の状態は、補助スイッチ取外し時に、図42に示す補助接点目視窓から点検します。



## 7. 異常現象に対する処置

図4 3～図4 6に、異常現象に対する処置を示します。



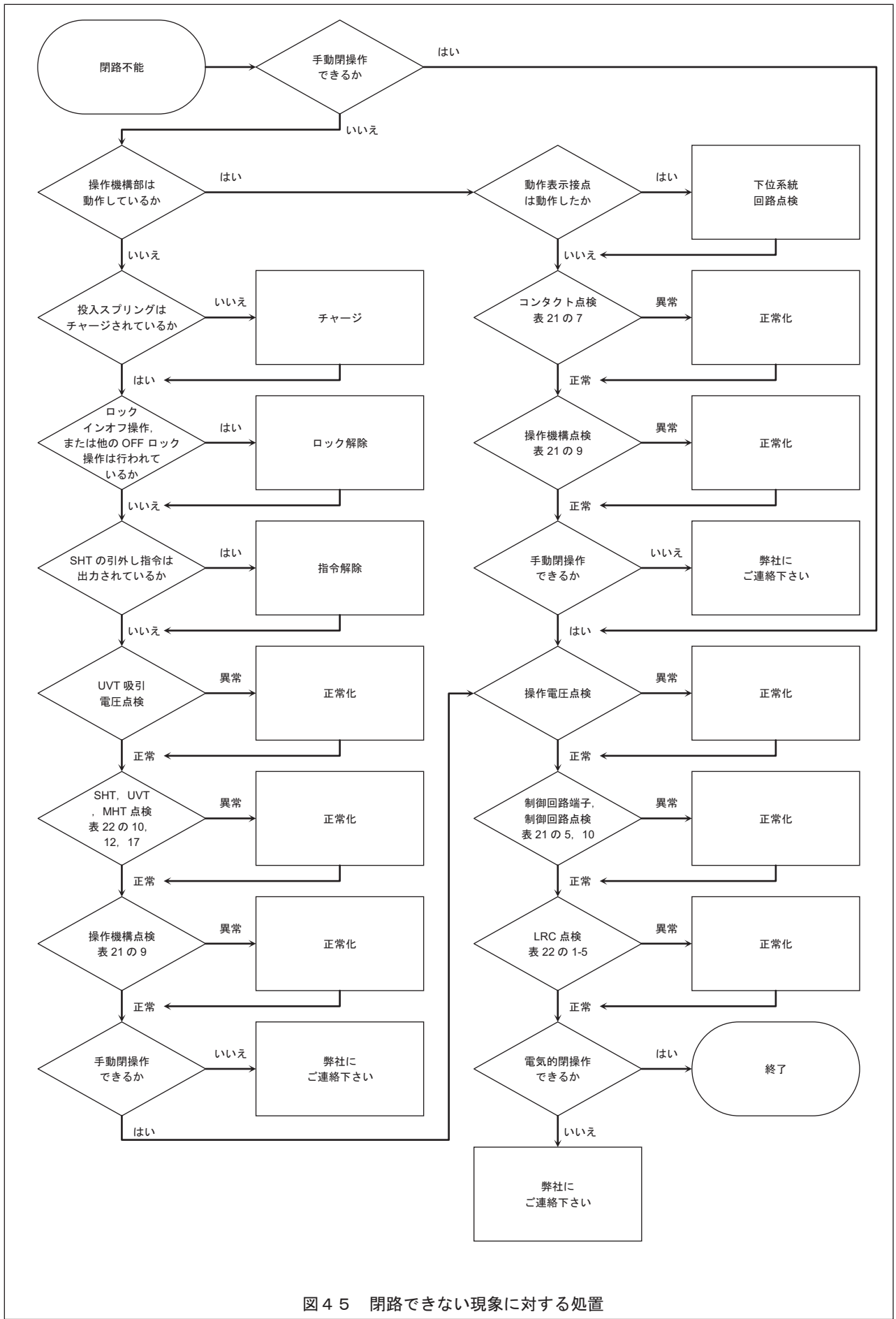


図 4 5 閉路できない現象に対する処置

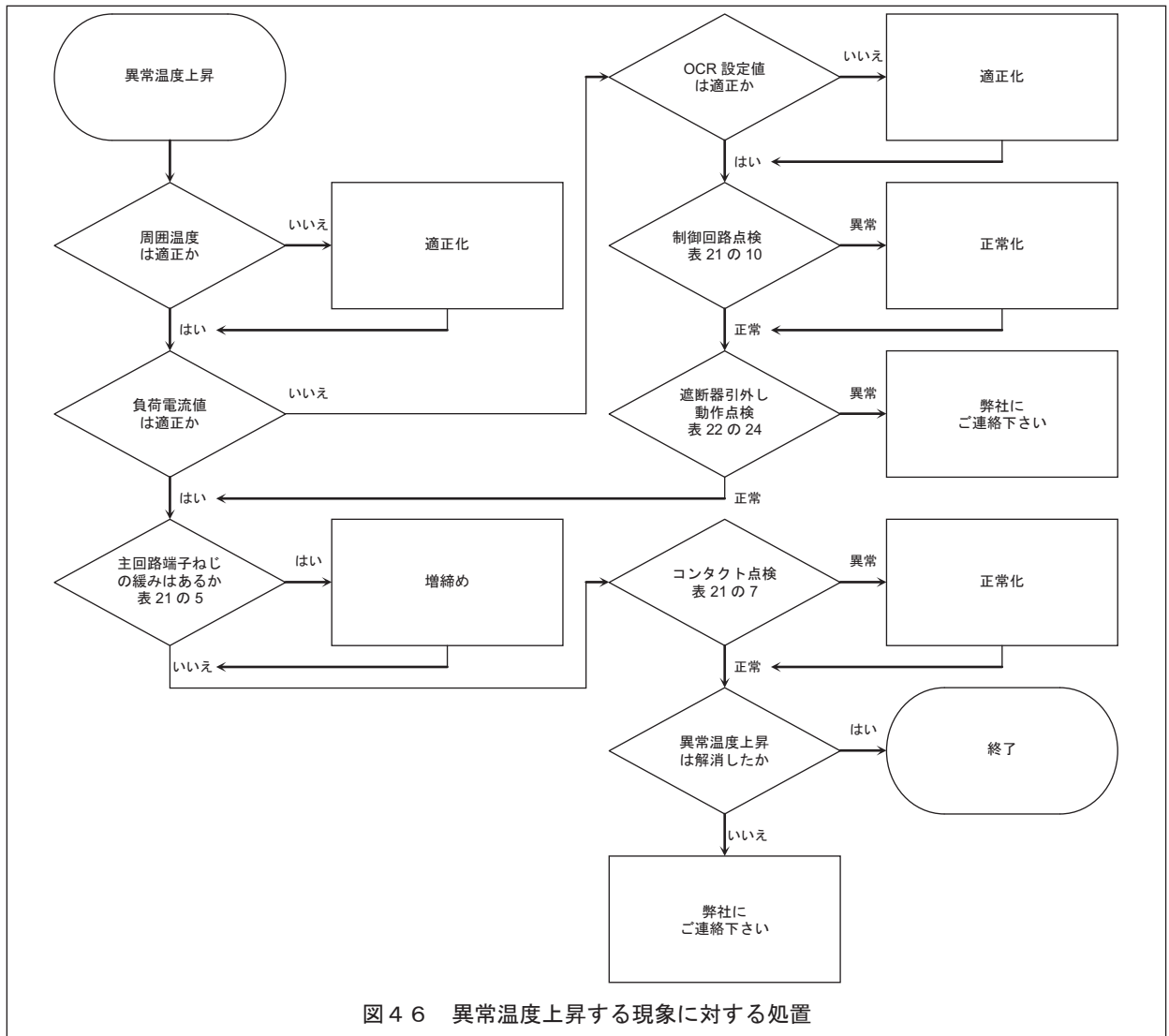


図 4 6 異常温度上昇する現象に対する処置



## 気中遮断器《ユーザー登録》ご案内



寺崎電気産業株式会社

### ユーザー登録について

この度は、テラサキ気中遮断器（ACB）をご使用いただき、誠にありがとうございます。ユーザー登録をされると、テクニカルサポート、新製品のご案内、保守点検のご案内、セミナーのご案内などのサービスを弊社よりご提供いたします。お客様へスムーズで的確なサービスを提供させていただくために、ぜひ、ユーザー登録をお願いいたします。

### ユーザー登録方法

① F A X で登録 裏面のユーザー登録カードに必要事項をご記入の上、06-6791-2732へ送信してください。

② E-mail で登録 以下の事項を E-mail で kiki-info@terasaki.co.jp まで送付ください。

- |                  |            |
|------------------|------------|
| ★気中遮断器形式及びシリアル番号 | ・会社名       |
| ★使用管理者のお名前       | ★住所        |
| ・電話番号            | ・ F A X 番号 |
| ・ E-mail アドレス    |            |

《注意》★印は必須項目となっておりますので、必ずご連絡ください。

### ユーザー I D について

ユーザー登録をされるとユーザー I D が記載された登録完了ハガキや E メールをお届けします。

ユーザー I D はユーザー登録内容変更や製品に関するお問い合わせ等、お客様より連絡をいただいた際に弊社とお客様とのやりとりを円滑にするためのコード番号です。

ユーザー I D の登録後は、お問い合わせ時にユーザー I D をお知らせいただくとお客様のユーザー登録状況の確認にお時間がかかりません。

### ユーザー登録に関してのお問合せ先

寺崎電気産業株式会社 機器事業マーケティング部 ユーザー登録係

電話：06-6791-2768 F A X：06-6791-2732（電話/FAX番号のおかけ間違いのないよう、お願いいたします）

メンテナンス・更新のご相談や緊急時の対応は、下記にご連絡ください。

- ・寺崎電気産業株式会社 電話：06-6791-2756 F A X：06-6791-2732
- ・テラテック株式会社 電話：06-6693-6969 F A X：06-6606-0258

## ユーザー登録カードの記入について

### 【シリアル番号記入欄】

ご使用頂いている各製品の「シリアル番号」をご記入ください。

《注意》「シリアル番号」が記入されていませんと、ユーザー登録ができませんのでご注意ください。

### 【会社名・所属名】

「会社名」、「所属名」をご記入ください。

### 【E-Mail】

現在お持ちのインターネットのEメールアドレスを1つだけご記入ください。

《注意》「携帯電話アドレス」や「フリーメールアドレス」をご記入された場合は、弊社からのお知らせが受け取れない場合がありますのでご注意ください。

ご記入いただいたユーザー登録情報は、弊社の個人情報保護規定に基づいて厳重に管理いたします。弊社ホームページ「個人情報保護の取り組み」をご確認ください。 <http://www.terasaki.co.jp/tj/>

## シリアル番号について

「シリアル番号」は、製品の形式銘板の下方に記載しています。「シリアル番号」を「ユーザー登録カード」に必ずご記入ください。「シリアル番号」は、お客様がご使用の気中遮断器を特定する個別の番号で、「製品の仕様確認」、「ユーザー登録」、「テクニカルサポート」の際に必要となりますので、大切に保管してください。

## ユーザー登録各種手続き

**登録情報変更** 登録情報を変更する場合は、現在のユーザーIDと登録情報の変更箇所をご記入のうえFAX送付いただくか、E-mailでkiki-info@terasaki.co.jpまで送付ください。

**ユーザーID集約** ユーザーIDを複数お持ちのお客様は、ユーザーIDを一つにまとめることができます。お手続きについては弊社までお問い合わせください。

その他、お手続きでご不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

枠内に気中遮断器（ACB）形式・シリアル番号・ユーザー登録情報をご記入ください。

※「シリアル番号」は、製品の形式銘板の下方に記載しています。

★印は必須項目となっておりますので、必ずご記入ください。

★気中遮断器（ACB）形式	★シリアル番号

### 〔ユーザー登録情報〕

新規登録 / ユーザー登録情報の変更 ←該当する項目のチェックボックスに印を入れてください。

ユーザーID (新規登録の場合は記入不要です)	<input type="text"/>	会社名 / 所属名	フリガナ
★使用管理者 お名前	★フリガナ		フリガナ
★住所	<input type="text"/>	フリガナ	都 道 府 県
	フリガナ	市 区 郡	
電話番号	市外局番 ( ) -	FAX番号	市外局番 ( ) -
E-Mail	<input type="text"/>		

FAX登録専用番号06-6791-2732  
 寺崎電気産業株式会社  
 機器事業マーケティング課 ユーザー登録係 行





## 寺崎電気産業株式会社

- 本社 〒547-0002 大阪市平野区加美東六丁目13番47号  
<http://www.terasaki.co.jp/>

お問い合わせ先は下記機器事業所へ

- 東京営業所 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1-6-10 日幸茅場町ビル5F  
TEL 03-5644-0160 FAX 03-5644-0161 kiki-tokyo@terasaki.co.jp
- 大阪営業所 〒547-0002 大阪市平野区加美東6-13-47  
TEL 06-6791-2756 FAX 06-6791-2732 kiki-osaka@terasaki.co.jp
- 東北出張所 〒983-0045 宮城県仙台市宮城野区宮城野3-5-15 宮城野アベニュー1F  
TEL 022-296-4230 FAX 022-296-4231
- 名古屋営業所 〒465-0013 名古屋市名東区社口1-908  
TEL 052-760-1401 FAX 052-776-7015 kiki-nagoya@terasaki.co.jp
- 四国営業所 〒762-0044 香川県坂出市本町3-6-12 さくらビル2F  
TEL 0877-85-9001 FAX 0877-85-9002 kiki-shikoku@terasaki.co.jp
- 九州営業所 〒815-0033 福岡市南区大橋1-2-5 大橋センタービル3F  
TEL 092-512-8731 FAX 092-511-0955 kiki-kyushu@terasaki.co.jp

2010年8月発行

2014年1月改訂

2017年2月改訂

2018年6月改訂

※内容をお断りなしに変更することがあります。ご了承ください。

※この取扱説明書は再生紙を使用しています。